

芸術系教科・科目の資質・能力 の育成等について

議題

芸術系教科・科目の資質・能力 の育成等について

論点 1 芸術系教科・科目における伝統と文化に関する教育の充実
の在り方について

論点 2 多様な芸術や文化に関する学びの充実について

論点 1 芸術系教科・科目における伝統と文化に関する教育の充実の在り方について

事例発表① 長谷川慎氏（静岡大学教授）

事例発表② 道越洋美委員（静岡県藤枝市教育委員会主席指導主事）

事例発表③ 高橋利郎氏（大東文化大学教授）

論点 1 芸術系教科・科目における伝統と文化に関する教育の充実の在り方について

(1) 伝統と文化に関する教育の位置付け

- 伝統と文化に関する教育は教育基本法や学校教育法において、**教育の目標として位置付け**られ、学校教育においてその充実が求められている

(参考)

- ・「伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと」(教育基本法)
- ・「伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する態度を養うとともに、進んで外国の文化の理解を通じて、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと」(学校教育法)

- 現行の学習指導要領においては、教育基本法などの法令や中央教育審議会答申（平成28年12月）を踏まえ、**各教科等の特質に応じて伝統や文化に関連する内容が位置付け**られるとともに、**教科等横断的な視点により、各学校の特色を生かした教育課程の編成を図る**こととされている

(参考)

- ・「古典や歴史、芸術の学習等を通じて、日本人として大切にしてきた文化を積極的に享受し、我が国の伝統や文化を語り継承していけるようにすること、様々な国や地域について学ぶことを通じて、文化や考え方の多様性を理解し、多様な人々と協働していけることができるようにすることなどが重要」(中央教育審議会答申（平成28年12月）)
- ・「現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を、教科等横断的な視点で育成していくことができるよう、各学校の特色を生かした教育課程の編成を図るものとする」(小・中学校学習指導要領総則)

(2) 現状や課題

- 芸術系教科・科目においては、例えば、以下に関する指導が行われている
 - ・ 我が国や郷土の音楽（唱歌、民謡、和楽器等）に関すること（音楽、芸術（音楽））
 - ・ 我が国の美術作品などや、美術文化、工芸の伝統と文化に関すること（図画工作、美術、芸術（美術、工芸））
 - ・ 現代の生活や社会における書の美の効用など、書の伝統と文化に関すること（芸術（書道））
- 各学校においては、地域の実態等を踏まえ、特色を生かした指導が行われているものの、他方で、**児童生徒が伝統と文化を学ぶ意義を感じられるようにしていくことについては、一層の充実が望まれる**
（→ 7～8ページ、27～40ページ「学習指導要領実施状況調査の結果」参照）
- また、**我が国の文化を継承し新たな価値や文化を積極的に創造していく意識付け**や、子供たちの身の回りにない、雅楽、歌舞伎、文楽、能楽などを扱う際には、**子供たちがその意味や価値を見いだすことができるようすることがより一層重要とされている**

（参考）文化芸術教育の充実・改善に向けた検討会議 審議のまとめ（令和6年12月25日）

「伝統芸能、伝統音楽など古来から受け継がれている分野については、型などの基礎があり、そこから新たな創造が加わり変化し現在まで継承されていることを学び、我が国の文化を継承し新たな価値や文化を積極的に創造していく意識付けがより一層重要である」

「子供たちの身の回りにないもの、例えば、雅楽、歌舞伎、文楽、能楽などを扱う際には、子供たちがその意味や価値を見いだすことができるようにすることが重要である」

(3) 改善の方向性 (案)

- 現状や課題、事例発表などを踏まえ、次期学習指導要領における**伝統や文化に関する教育の充実について、例えば以下の基本的な方向性をとることとしてはどうか**

- 国際社会で活躍する日本人の育成を図るため、我が国や郷土の伝統や文化を受けとめ、そのよさを継承・発展させるための教育を充実すること
- 発達の段階に応じて、音楽や美術、工芸、書の**伝統や文化を尊重し、その意味や価値を見いだせるようにすることで、学ぶ意義を実感できるよう**、目標や高次の資質・能力、見方・考え方において明確にすること
 - ・「目標」、「高次の資質・能力」を踏まえ、**学習指導要領の構造化の中で伝統や文化がもつ意味や価値の追求を通して、「深い学び」を実現**
 - ・「見方・考え方」において、**物事を捉える視点として「文化」、教科固有の考え方・判断の仕方として「意味や価値を見いだすこと」**などを明確化
- そのため、芸術系教科・科目の特質に応じて、例えば、以下のような学習の充実を図ること

<音楽>

身体感覚を働かせて表現を深めることや、地域に伝わる音楽やそれを受け継いでいる人々と関わることを通して、**自分や他者にとっての音楽文化の意味や価値を考え、我が国や郷土の伝統音楽を学ぶ意義を実感できる学習の充実**を図ること

<図画工作、美術、工芸>

表現の主題、材料や用具、鑑賞の対象などに、我が国や地域の伝統や文化を生かし、**豊かに発想や構想をし、表現を追求したり、美術文化などの意味や価値を考えたりすることにつなげ、自分と伝統や文化との関係を深める学習の充実**を図ること

<書道>

生活や社会の中で育まれ共有・継承されてきた**書の伝統と**、文字や書の働きが形づくってきた**書の文化の視点を通して、作品から書的美を読み取ったり、それを表現に生かしたりするなど、表現と鑑賞を関連させた学習の充実**を図ること

(3) 改善の方向性（案）（つづき）

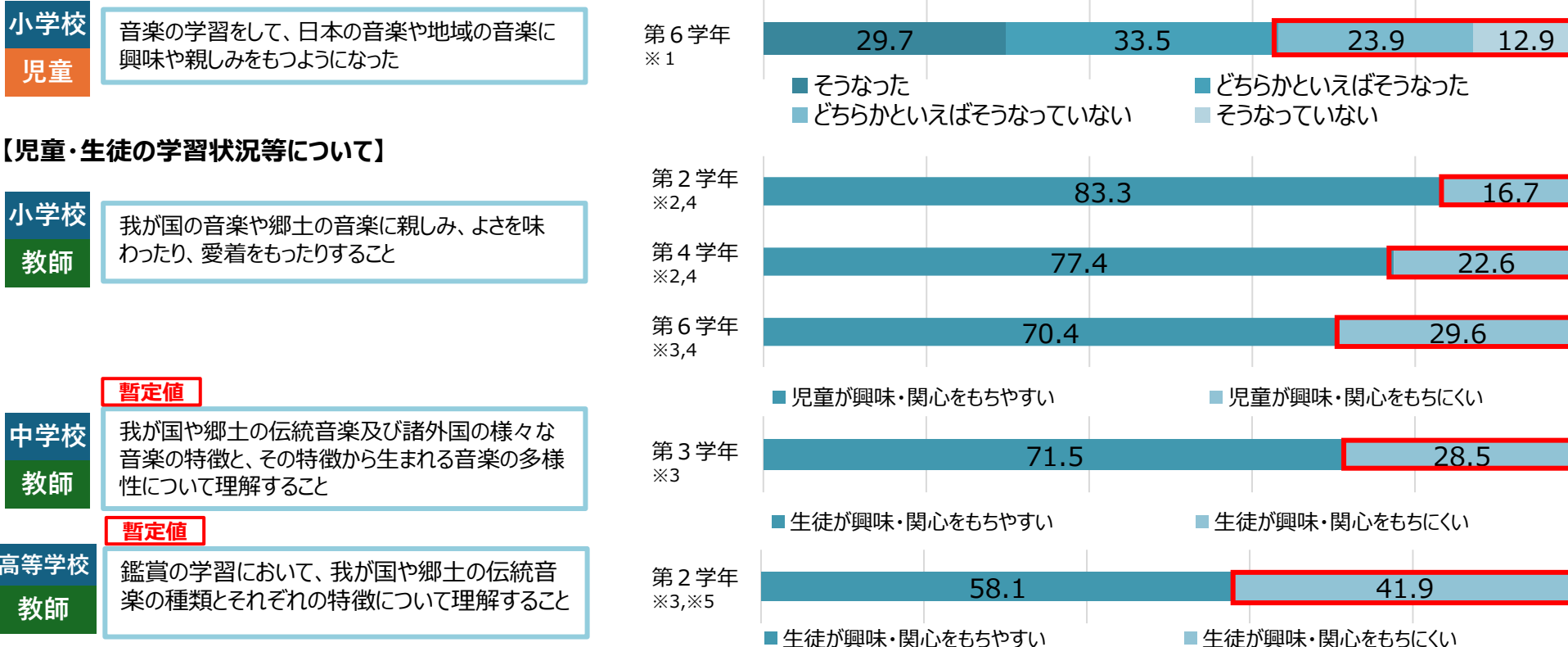
- 地域社会や文化施設、専門的な人材等との連携や協働をより一層深めること
- 伝統や文化に関する各教科等の特質を生かし、相互の適切な関連を図りながら、教科等横断的に教育課程を編成すること
- 伝統や文化に関する教育課程の編成や教育内容の理解・実践などに関する指導の改善充実につながるよう、解説や教師用指導資料等における具体例を提示、教師の指導力向上のための研修機会等を確保すること

論点 1 芸術系教科・科目における伝統と文化に関する教育の充実の在り方について

(参考) 学習指導要領実施状況調査の結果

- ✓ 小学校児童に対し、日本の音楽や地域の音楽に興味や親しみをもつことについて、一定の成果は見られるものの3割程度が否定的な回答をしている。
- ✓ 質問項目は異なるものの、我が国や郷土の音楽に対する児童生徒の興味・関心のもちやすさに関する教師の捉えについて、小、中、高等学校へと学校段階が進むにつれて、否定的な回答が増加する傾向がみられる。

音楽科・芸術科（音楽 I）



※1 各選択肢を選んだ児童の割合 (%) (重み付き)

※2 各選択肢を選んだ教師の割合 (%) (重みなし)

※3 各選択肢を選んだ教師の指導を受けている児童生徒の割合 (%) (重み付き)

※4 中学校及び高等学校に合わせて再計算した数値を用いている

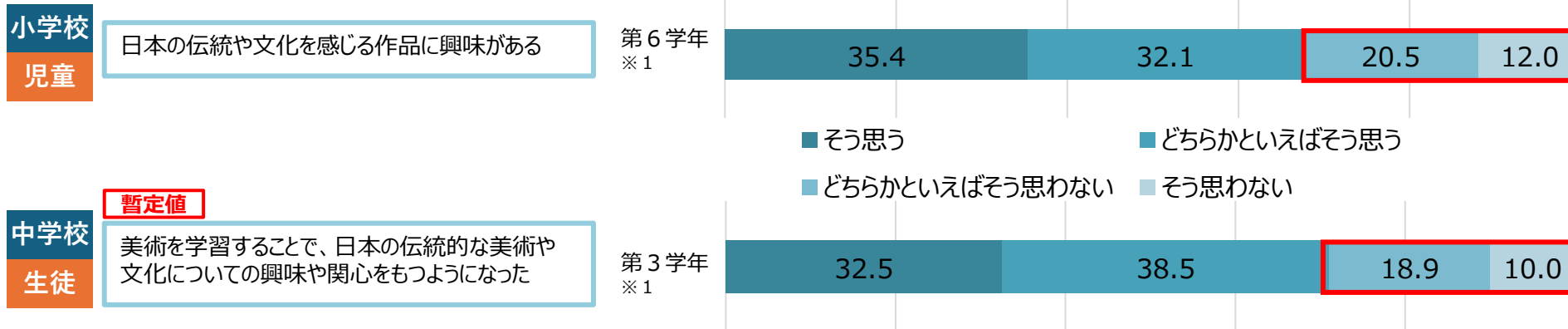
※5 音楽 I の履修を完了した第2学年の生徒への指導を行っていた教師を対象に調査を実施

論点 1 芸術系教科・科目における伝統と文化に関する教育の充実の在り方について

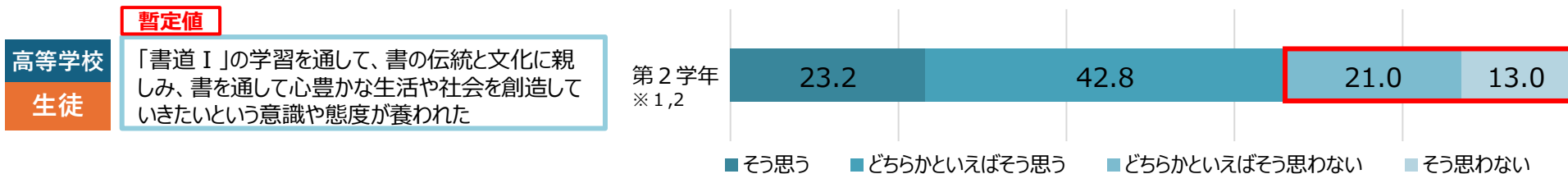
(参考) 学習指導要領実施状況調査の結果

- ✓ 図画工作科・美術科において、日本の伝統や文化に関わる児童生徒の興味・関心について、一定の成果は見られるものの3割程度が否定的な回答をしている。
- ✓ 芸術科（書道）において、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していきたいという意識や態度が養われたかについて、一定の成果は見られるものの3割程度が否定的な回答をしている。

図画工作科・美術科



芸術科（書道 I）



※1 各選択肢を選んだ児童生徒の割合（%）（重み付き）
 ※2 書道 I の履修を完了した第2学年の生徒を対象に調査を実施

論点 1 芸術系教科・科目における伝統と文化に関する教育の充実の在り方について

(参考) 現行学習指導要領における記載の抜粋

音楽

小学校 音楽

〔第1学年及び第2学年〕

第2

3(3) 鑑賞教材は次に示すものを取り扱う。

ア 我が国及び諸外国のわらべうたや遊びうた、行進曲や踊りの音楽など体を動かすことの快さを感じ取りやすい音楽、日常生活に関連して情景を思い浮かべやすい音楽など、いろいろな種類の曲

第3

2(3) 我が国や郷土の音楽の指導に当たっては、そのよさなどを感じ取って表現したり鑑賞したりできるよう、音源や楽譜等の示し方、伴奏の仕方、曲に合った歌い方や楽器の演奏の仕方などの指導方法を工夫すること。

(4) 各学年の「A表現」の(1)の歌唱の指導に当たっては、次のとおり取り扱うこと。

ア 歌唱教材については、我が国や郷土の音楽に愛着がもてるよう、共通教材のほか、長い間親しまれてきた唱歌、それぞれの地方に伝承されているわらべうたや民謡など日本のうたを含めて取り上げるようにすること。

(5) 各学年の「A表現」の(2)の楽器については、次のとおり取り扱うこと。

ア 各学年で取り上げる打楽器は、木琴、鉄琴、和楽器、諸外国に伝わる様々な楽器を含めて、演奏の効果、児童や学校の実態を考慮して選択すること。

〔第3学年及び第4学年〕

第2

3(3) 鑑賞教材は次に示すものを取り扱う。

ア 和楽器の音楽を含めた我が国の音楽、郷土の音楽、諸外国に伝わる民謡など生活との関わりを捉えやすい音楽、劇の音楽、人々に長く親しまれている音楽など、いろいろな種類の曲

第3

2(3) 我が国や郷土の音楽の指導に当たっては、そのよさなどを感じ取って表現したり鑑賞したりできるよう、音源や楽譜等の示し方、伴奏の仕方、曲に合った歌い方や楽器の演奏の仕方などの指導方法を工夫すること。

(4) 各学年の「A表現」の(1)の歌唱の指導に当たっては、次のとおり取り扱うこと。

ア 歌唱教材については、我が国や郷土の音楽に愛着がもてるよう、共通教材のほか、長い間親しまれてきた唱歌、それぞれの地方に伝承されているわらべうたや民謡など日本のうたを含めて取り上げるようにすること。

(5) 各学年の「A表現」の(2)の楽器については、次のとおり取り扱うこと。

ア 各学年で取り上げる打楽器は、木琴、鉄琴、和楽器、諸外国に伝わる様々な楽器を含めて、演奏の効果、児童や学校の実態を考慮して選択すること。
ウ 第3学年及び第4学年で取り上げる旋律楽器は、既習の楽器を含めて、リコーダーや鍵盤楽器、和楽器などの中から児童や学校の実態を考慮して選択すること。

論点 1 芸術系教科・科目における伝統と文化に関する教育の充実の在り方について

(参考) 現行学習指導要領における記載の抜粋

小学校
音楽

〔第5学年及び第6学年〕

第2

3(3) 鑑賞教材は次に示すものを取り扱う。

ア 和楽器の音楽を含めた我が国の音楽や諸外国の音楽など文化との関わりを捉えやすい音楽、人々に長く親しまれている音楽など、いろいろな種類の曲

第3

2(3) 我が国や郷土の音楽の指導に当たっては、そのよさなどを感じ取って表現したり鑑賞したりできるよう、音源や楽譜等の示し方、伴奏の仕方、曲に合った歌い方や楽器の演奏の仕方などの指導方法を工夫すること。

(4) 各学年の「A表現」の(1)の歌唱の指導に当たっては、次のとおり取り扱うこと。

ア 歌唱教材については、我が国や郷土の音楽に愛着がもてるよう、共通教材のほか、長い間親しまれてきた唱歌、それぞれの地方に伝承されているわらべうたや民謡など日本のうたを含めて取り上げるようにすること。

(5) 各学年の「A表現」の(2)の楽器については、次のとおり取り扱うこと。

ア 各学年で取り上げる打楽器は、木琴、鉄琴、和楽器、諸外国に伝わる様々な楽器を含めて、演奏の効果、児童や学校の実態を考慮して選択すること。

イ 第5学年及び第6学年で取り上げる旋律楽器は、既習の楽器を含めて、電子楽器、和楽器、諸外国に伝わる楽器などの中から児童や学校の実態を考慮して選択すること。

中学校
音楽

〔第1学年〕

第2 2

B 鑑賞

(1) 鑑賞の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

イ 次の(ア)から(ウ)までについて理解すること。

(ウ) 我が国や郷土の伝統音楽及びアジア地域の諸民族の音楽の特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性

〔第2学年及び第3学年〕

第2 2

B 鑑賞

(1) 鑑賞の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

イ 次の(ア)から(ウ)までについて理解すること。

(ウ) 我が国や郷土の伝統音楽及び諸外国の様々な音楽の特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性

第3

2(2) 各学年の「A表現」の(1)の歌唱の指導に当たっては、次のとおり取り扱うこと。

ア 歌唱教材は、次に示すものを取り扱うこと。

(イ) 民謡、長唄などの我が国の伝統的な歌唱のうち、生徒や学校、地域の実態を考慮して、伝統的な声や歌い方の特徴を感じ取れるもの。なお、これらを取り扱う際は、その表現活動を通して、生徒が我が国や郷土の伝統音楽のよさを味わい、愛着をもつことができるよう工夫すること。

(3) 各学年の「A表現」の(2)の器楽の指導に当たっては、次のとおり取り扱うこと。

イ 生徒や学校、地域の実態などを考慮した上で、指導上の必要に応じて和楽器、弦楽器、管楽器、打楽器、鍵盤楽器、電子楽器及び世界の諸民族の楽器を適宜用いること。なお、3学年間を通じて1種類以上の和楽器を取り扱い、その表現活動を通して、生徒が我が国や郷土の伝統音楽のよさを味わい、愛着をもつことができるよう工夫すること。

(6) 我が国の伝統的な歌唱や和楽器の指導に当たっては、言葉と音楽との関係、姿勢や身体の使い方についても配慮するとともに、適宜、口唱歌を用いること。

(8) 各学年の「B鑑賞」の指導に当たっては、次のとおり取り扱うこと。

ア 鑑賞教材は、我が国や郷土の伝統音楽を含む我が国及び諸外国の様々な音楽のうち、指導のねらいに照らして適切なものを取り扱うこと。

論点 1 芸術系教科・科目における伝統と文化に関する教育の充実の在り方について

(参考) 現行学習指導要領における記載の抜粋

図画工作、美術

<p>小学校 図画工作</p>	<p>〔第3学年及び第4学年〕 第2 2 B 鑑賞 (1) 鑑賞の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 身近にある作品などを鑑賞する活動を通して、自分たちの作品や身近な美術作品、製作の過程などの造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げること。</p> <p>〔第5学年及び第6学年〕 第2 2 B 鑑賞 (1) 鑑賞の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 親しみのある作品などを鑑賞する活動を通して、自分たちの作品、我が国や諸外国の親しみのある美術作品、生活の中の造形などの造形的なよさや美しさ、表現の意図や特徴、表し方の変化などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深めること。</p> <p>第3 2(11) 創造することの価値に気付き、自分たちの作品や美術作品などに表れている創造性を大切にすることを養うようにすること。また、こうした態度を養うことが、美術文化の継承、発展、創造を支えていることについて理解する素地となるよう配慮すること。</p>
<p>中学校 美術</p>	<p>〔第1学年〕 第2 2 B 鑑賞 (1) 鑑賞の活動を通して、次のとおり鑑賞に関する資質・能力を育成する。 イ 生活の中の美術の働きや美術文化についての見方や感じ方を広げる活動を通して、鑑賞に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (イ) 身近な地域や日本及び諸外国の文化遺産などのよさや美しさなどを感じ取り、美術文化について考えるなどして、見方や感じ方を広げること。</p> <p>〔第2学年及び第3学年〕 第2 2 B 鑑賞 (1) 鑑賞の活動を通して、次のとおり鑑賞に関する資質・能力を育成する。 イ 生活や社会の中の美術の働きや美術文化についての見方や感じ方を深める活動を通して、鑑賞に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (イ) 日本の美術作品や受け継がれてきた表現の特質などから、伝統や文化のよさや美しさを感じ取り愛情を深めるとともに、諸外国の美術や文化との相違点や共通点に気付き、美術を通じた国際理解や美術文化の継承と創造について考えるなどして、見方や感じ方を深めること。</p> <p>第3 2(6) 各学年の「B鑑賞」の題材については、国内外の児童生徒の作品、我が国を含むアジアの文化遺産についても取り上げるとともに、美術館や博物館等と連携を図ったり、それらの施設や文化財などを積極的に活用したりするようにすること。</p>

論点 1 芸術系教科・科目における伝統と文化に関する教育の充実の在り方について

(参考) 現行学習指導要領の解説における記載の例

音楽 (※点線枠内は対応する本則の記載であり、我が国や郷土の伝統音楽のよさを味わい愛着をもつことに関連する解説の記載の一部を抜粋して下記に示す)

<p>小学校 音楽</p>	<p>〔第 5 学年及び第 6 学年〕 第 3</p> <p>2 (4) 各学年の「A 表現」の(1) の歌唱の指導に当たっては、次のとおり取り扱うこと。 ア 歌唱教材については、我が国や郷土の音楽に愛着がもてるよう、共通教材のほか、長い間親しまれてきた唱歌、それぞれの地方に伝承されているわらべうたや民謡など日本のうたを含めて取り上げるようにすること。</p> <p>これらの事項は、歌唱の指導の取扱いについて示したものである。 アの事項は、歌唱教材として、唱歌、わらべうたや民謡など日本のうたを選択する観点について示したものである。 各学年の「3 内容の取扱い」(1) アにおいて、共通教材を含めて歌唱教材を取り扱うことについて示しているが、各学校の児童の実態に合った教材を幅広い視野から選び、指導を工夫することが大切である。 多くの人々に長い間親しまれてきた日本のうたには、唱歌や童謡など、児童が豊かな表現を楽しむことのできるものが数多くある。それらのうたは、人々の生活や心情と深い関わりをもちながら、世代を超えて受け継がれてきた我が国の音楽文化といえるものであり、また、季節や自然などの風情や美しさを感じ取り、いとおしんできた日本人の感性が息づいている音楽とも言える。 また、わらべうたや民謡、日本古謡は、我が国の伝統的な音感覚に根ざした音楽であり、共通教材として取り上げたものも、古くから親しまれ、比較的広域で歌われてきたものである。しかし、こうした日本のうたのもつよさや楽しさは、むしろそれぞれの土地に伝承され親しまれてきたものにこそ味わいのあるものが多く見られる。 なお、我が国や郷土の音楽に愛着がもてるように示したのは、このような特徴のある日本のうたを扱うねらいを明確にしたものであり、こうした観点も含めて日本のうたを取り上げるようにすることが大切である。 (後略)</p>
<p>中学校 音楽</p>	<p>〔第 2 学年及び第 3 学年〕 第 3 (前略)</p> <p>(3) 各学年の「A 表現」の(2) の器楽の指導に当たっては、次のとおり取り扱うこと。 イ 生徒や学校、地域の実態などを考慮した上で、指導上の必要に応じて和楽器、弦楽器、管楽器、打楽器、鍵盤楽器、電子楽器及び世界の諸民族の楽器を適宜用いること。なお、3 学年間を通じて 1 種類以上の和楽器を取り扱い、その表現活動を通して、生徒が我が国や郷土の伝統音楽のよさを味わい、愛着をもつことができるよう工夫すること。</p> <p>(前略)</p> <p>箏、三味線、尺八、篠笛、太鼓、雅楽で用いられる楽器などの和楽器については、平成 10 年告示の中学校学習指導要領で必修化して以降の成果と課題を基に、その指導を更に充実するため、引き続き、中学校第 1 学年から第 3 学年までの間に 1 種類以上の和楽器を扱い、表現活動を通して、生徒が我が国や郷土の伝統音楽のよさを味わうことができるよう工夫することを示すとともに、今回の改訂では、愛着をもつことができるよう工夫することを新たに示している。生徒が実際に演奏する活動を通して、音色や響き、奏法の特徴、表現力の豊かさや繊細さなどを感じ取ることは、我が国や郷土の伝統音楽のよさを味わい、愛着をもつことにつながっていくと考えられる。和楽器を用いるに当たっては、常に生徒や学校の実態に応じるとともに、可能な限り、郷土の伝統音楽を取り入れることが肝要である。なお、和楽器を器楽表現の指導に用いることはもちろんであるが、歌唱や創作、鑑賞との関連も図りながら、実際に和楽器に触れ、体験することで、我が国や郷土の伝統音楽についての学習を深めることが期待できる。(後略)</p>

論点1 芸術系教科・科目における伝統と文化に関する教育の充実の在り方について

(参考) 現行学習指導要領の解説における記載の例

図画工作、美術 (※点線枠内は対応する本則の記載であり、伝統文化のよさや美しさに関連する解説の記載の一部を抜粋して下記に示す)

小学校 図画工作	<p>〔第5学年及び第6学年〕 第2 2 B 鑑賞</p> <p>(1) 鑑賞の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 親しみのある作品などを鑑賞する活動を通して、自分たちの作品、我が国や諸外国の親しみのある美術作品、生活の中の造形などの造形的なよさや美しさ、表現の意図や特徴、表し方の変化などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深めること。</p> <p>(前略) 我が国の伝統や文化について取り扱う場合は、人々が前の世代から受け継ぎ、維持、変化させながらつくりだしてきたことや、生活の中で今も生きて働いており自分たちの感じ方や見方を支えるものであることを踏まえる必要がある。自分たちのよさを再発見するような視点で行い、これを大切にしたり、芸術や自然の美しさを味わったりしていこうとする態度の素地となることが重要である。 (後略)</p>
中学校 美術	<p>〔第2学年及び第3学年〕 第2 2 B 鑑賞</p> <p>(1) 鑑賞の活動を通して、次のとおり鑑賞に関する資質・能力を育成する。 イ 生活や社会の中の美術の働きや美術文化についての見方や感じ方を深める活動を通して、鑑賞に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (イ) 日本の美術作品や受け継がれてきた表現の特質などから、伝統や文化のよさや美しさを感じ取り愛情を深めるとともに、諸外国の美術や文化との相違点や共通点に気付き、美術を通じた国際理解や美術文化の継承と創造について考えるなどして、見方や感じ方を深めること。</p> <p>(中略) 伝統や文化のよさや美しさを感じ取り愛情を深めるとは、独自の文化を生み出してきた日本の美術文化のよさを感じ取り十分に味わい、よきものとしてそれらの愛情を深めることである。ここでは、日本文化の根底に受け継がれてきた独自の美意識や創造的精神、生活に求めた願いや心の豊かさなどを捉えさせることが重要である。また、それぞれの時代に見られる表現の特性や、アイヌや琉球の文化などの各地域の文化の独自性にも着目させ、日本文化の多様性についても学ばせるようにする。そして、美術としての文化遺産そのものや、その背景となる日本文化の特質への関心を高め、それらが現代においても大きな意味をもつとともに、未来に向かっての新たな創造の糧となっていることに気付かせるようにすることが大切である。</p>

論点 2 多様な芸術や文化に関する学びの充実について

論点2 多様な芸術や文化に関する学びの充実について

(1) 「文化芸術教育の充実・改善に向けた検討会議」における提言

- 多様な芸術や文化に関する学びに関わり、例えば、「文化芸術教育の充実・改善に向けた検討会議」（審議のまとめ）において、以下の言及がなされている
 - …グローバル社会の中で、世界中の多様な文化的・社会的背景をもつ人々が多くの作品を通じて交流し、**多様な価値観の尊重、共感、相互理解をもたらす**とともに、文化芸術の交流・協働から生まれる創造的な価値創造と、それらを国内外に発信する芸術活動を更に促進していくことが重要となっている。
 - また、これからの芸術系教科の充実のため、例えば **ICTや多様なメディアを活用することで**、子供たちが即興性を発揮しつつ多様な選択肢の中で試行錯誤しながら一つ一つ意思決定をし、その場で自身の身体を使い、思いや意図をもちながら、知識および技能を習得、活用したり、思考力、判断力、表現力等を働かせたりするなど**効果的に資質・能力を育成することが可能**となる。
 - メディア芸術に関する教育について、例えば、アニメーションを入口として日本文化や地域文化への関心が高まることや、1人1台端末の整備に伴い、その教育的可能性がますます高まる。
 - 日本のマンガ、アニメ、ゲーム、映画等は海外でも高く評価され国内外にわたる成長分野として当該分野における人材育成の必要が指摘されているが、こうした現状の我が国の文化に関する教育について、計画的・系統的な指導や対外的な発信力の育成が弱い点、総授業時数の枠の中で学びを深めることの難しさについて指摘があった。
 - **AIなどのテクノロジーがより一層進化していくこれからの時代においては、人間は感性を働かせていくことがより重要**となることから、子供たちに豊かな感性や創造性等を育てていくため、1校でも多くの学校、1人でも多くの子供たちに、様々な本物に実際に触れる機会が提供される必要がある。

「文化芸術教育の充実・改善に向けた検討会議」審議のまとめ（令和6年12月25日） ※下線太字は事務局による

(2) 現状や課題

- 多様な芸術や文化（舞踊、演劇、落語などの舞台芸術や、マンガ、アニメーション、ゲーム、映像、映画などのメディア芸術など）に関する学びに関しては次のような取組が行われている（→ 19～24ページ参照）
- 音楽では、オペラ、映画、バレエなどの一場面を鑑賞し、総合芸術における音楽の役割や効果について考えたり、オペラのアリアやミュージカルのナンバーなどを歌唱し、曲種に応じた発声について理解したりする実践
- 図画工作、美術では、デジタル学習基盤を活用し、想像したことや伝えたいことなどを映像やアニメーション、漫画などに表す活動を通して資質・能力の育成を図る実践
- 音楽や図画工作・美術における多様な芸術や文化に関する実践の蓄積などを踏まえ、地域の実態等に応じて学校が創意工夫を生かした教科等横断的な取組
- 国や自治体の支援事業を活用し、アーティストと連携して創造したり、本物の舞台芸術を鑑賞したりする体験
- このような取組を通じて、多様な芸術や文化に関する学びが全ての教科等において通底する「創造」の土壌となるよう、子供たちがわくわくしながら多様な発想を生み出す深い学びにつなげていくことなどが重要
- また、GIGAスクール構想により1人1台端末の整備が進められていることを踏まえ、メディア芸術に関わる学習においては、特別なソフトウェアを利用せずとも、撮影・記録、描画・加工などの基本機能を用いて、端末を有効活用した実践が進められることが望まれる

(3) 改善の方向性(案)

- 現状や課題を踏まえ、次期学習指導要領における多様な芸術や文化に関する学びの充実について、以下を基本的な方向性として検討することとしてはどうか
 - 文化の継承・発展・創造につながるよう、芸術系教科・科目において育んだ感性や創造性を基に、教科等横断的に舞台芸術やメディア芸術などに関わり、表現の多様性を実感する機会を今後充実させていくこと
 - 芸術系教科・科目においては、教科の特性を踏まえ、例えば、以下のような視点をもつこと

<音楽>

児童生徒の表した音楽など学習の成果について、教科等横断的な視点を含め、舞台芸術や多様なメディア※と組み合わせたり、デジタル学習基盤を活用して発表や発信を行ったりする機会の充実

<図画工作、美術、工芸>

デジタル学習基盤を活用し、多様なメディア※による創造的な表現や鑑賞の学習を、発達の段階に応じて充実させるとともに、発表や展示の機会を拡充し、資質・能力を育成

<書道>

書道の表現の過程における時間性や運動性等の特質・特性を、異なる表現形式の芸術等と組み合わせた総合的な表現の中で生かしたり、多様なメディア※の機能を生かして表現や発表、展示したりする機会の充実

※多様なメディアについては、教科・科目の特性を踏まえ、マンガ、アニメーション、ゲーム、映像、映画などを発達の段階や授業のねらいに応じて取り扱う

論点2 多様な芸術や文化に関する学びの充実について

(3) 改善の方向性 (案) (つづき)

➤また、芸術系教科・科目において、教科・科目における取組や教科等横断的な取組を通して多様な芸術表現へとつなげていく視点から、例えば、以下の内容に関わり、学習指導要領や解説、教師用指導資料等における記載の充実、専門的な人材や文化施設・文化芸術団体等との連携や協働、教師の研修機会等の充実を図ること

<音楽>

- 総合的な学習・探究の時間の課題解決等に生かすことができるような、多様な芸術等との組合せを視野に入れた、伝える相手を意識した音楽づくり・創作の学習活動の充実（デジタル学習基盤の活用を含む）（小中高）
- ダンスなどの身体表現や映像などのメディアを用いた表現など様々な芸術表現等への活用を視野に入れた、音楽を形づくっている要素や音楽の特徴について実感を伴って捉える学習活動の充実（体を動かす活動を含む）（小中高）

<図画工作、美術、工芸>

- 総合的な学習・探究の時間等に関連させることができるような、多様な芸術等との組合せを視野に入れた、創造活動の充実（小図、中美、高美工）
- 児童生徒の作品などについて、デジタル学習基盤を活用して発表や展示を行う機会の充実（小図、中美、高美工）
- 地域や学校の実態に応じ、デジタル学習基盤を活用して、豊かに発想や構想をし映像やアニメーションなどに表す学習の充実（小図）
- 表現の可能性を広げるための、多様なメディアを活用した表現活動の充実（中美）
- 多様なメディアを用いた表現の特質や効果に関する鑑賞活動の充実（中美）
- 多様なメディアと関わらせ、豊かに主題を生成することや、夢のある発想をすることにつなげる学習の充実（高美）
- デジタル学習基盤の中で活用されるメディア機器等の特性を生かして表現するための技能を明確化した学習の充実（高美）
- 多様なメディアを活用して発信・交流しながら創造的に表現する学習の充実（高美）

<書道>

- 総合的な探究の時間等で、他の表現形式の芸術等と組み合わせた総合的な表現の中で生かすことができるような、書道の表現の過程での時間性や運動性等の特質・特性に係る学習活動の充実
- 映像などメディアの機能を生かした様々な芸術表現へ生かすことができる、書道の特質・特性に焦点を当てた表現や発表、展示の方法を工夫する学習活動の充実

論点2 多様な芸術や文化に関する学びの充実について

教科等横断的な取組事例（メディア芸術）

小学校
6年生

校章を基にイメージした映像と音によるサウンドロゴを作成
（静岡大学教育学部附属静岡小学校）

音楽

総合的な学習の時間

- ・総合的な学習の時間では、校章に込められた意味を知り、校章を基にしたオリジナルの4秒以内のロゴデザインの動画を作成した。
- ・音楽では、学校の歴史や伝統を感じ取り、イメージしたことを試行錯誤しながら、動画に合わせてサウンドロゴをつくった。



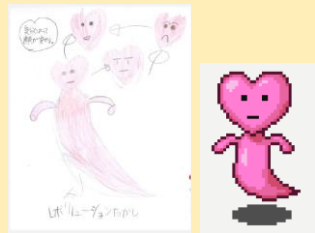
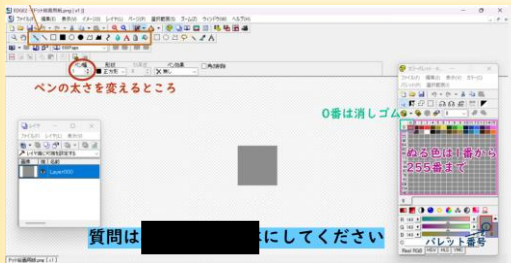
小学校
6年生

ゲームキャラクターのデザインにチャレンジ

図画工作

総合的な学習の時間

- ・図画工作では、ゲームの中でどのようなことができるキャラクターなのか想像し、名前、性格、特技などを考えながら、絵に表す活動を行った。
- ・総合的な学習の時間では、ゲームが出来上がるまでに多くの人が役割をもって協力していることについて調べた。また、プロのクリエイターの協力の下で、3DCGや2Dドットにする方法について知り、端末を用いて児童が自らドット絵の製作に取り組んだ。



中学校
2年生

漫画で伝えよう ～学校紹介漫画の制作～
（盛岡市立上田中学校）

美術

特別活動

- ・美術では、構図やオノマトペ、集中線、吹き出し、アングルなどの表現の効果を考えて、中学校の行事や部活動、生活等の様子を分かりやすく楽しく伝えるための漫画を制作した。
- ・小学校6年生を中学校に招いて、生徒会活動（特別活動）において学校の様子を伝えるとともに、制作した漫画を活用して中学校の魅力を発信した。



中学校
2年生

ポエティックフォト
～詩が思い浮かぶ情景を、撮影方法を考えて撮ろう～

美術

国語

- ・美術では、学校の敷地内で、対象や場の雰囲気から感じ取ったことを基に、詩的な情景を端末のカメラ機能を使って撮影した。その際、発想や構想したことを基に、主題に合う撮影方法を追求して表現した。
- ・国語では、美術で撮影した時の情景から感じたことや考えたことを基に、言葉や表現を工夫して詩を創作した。

教科等横断的な取組事例（メディア芸術）

高等学校
1年生

地域の魅力を漫画で伝える
(岡山県立玉島高等学校)

芸術科（美術 I）

総合的な探究の時間

- ・総合的な探究の時間に、地域の活性化を目指して、その魅力を伝え、未来の街づくりを考えるという課題に取り組んだ。地域の現状を調査したり、商店街で扱う新商品を考案したりしながら、地域の魅力を伝える漫画を、何度でも書き直せるデジタルのよさを生かして作成し、広く発信した。
- ・美術では、基本的な立体の描き方や文字の形や色彩などの効果を学んだ上で、地域のよさや特徴、商店街の新商品を紹介するために、プレゼンテーションシートなどを制作した。また、デジタルでイラストを作成する方法を学んだ。



高等学校
音楽コース
3年生

楽曲の魅力伝えるMVを作成しよう！

音楽（演奏研究）

特別活動

- ・「演奏研究」の授業では、各自が取り組んでいる楽曲について、自分なりの分析や解釈を、演奏を交えながら伝える動画を学期ごとにポートフォリオとして作成している。
- ・ホームルーム活動（特別活動）の時間に、中学生を対象とした「一日体験入学」の企画案を話し合い、この動画をMV（ミュージック・ビデオ）として作成し音楽コースの紹介コーナーで視聴してもらうことを決めた。そこで、中学生に興味をもってもらえるよう映像効果（照明、背景、ズームアップ／ダウン、キャプションなど）を工夫しながら撮影・編集した。



論点2 多様な芸術や文化に関する学びの充実について

教科等横断的な取組事例（舞台芸術）

小学校
6年生

オペラを通して郷土の音楽を引き継ぐ
(東広島市立西条小学校)

音楽

総合的な学習の時間

- ・酒どころとして長い歴史をもつ郷土の祭りでオペラを演じた。土地の恵みを生かして酒造りに取り組む杜氏らの姿勢など、伝統として培ってきた文化を学ぶ取組を行った。
- ・音楽では、酒造り唄の歌詞や仕事の様子から、仕事の大変さに思いを寄せ、曲想と音楽の構造との関わりについて理解したり、ふるさとの民謡を歌い継ぐ意義を考えたりするなどの学習を行った。
- ・総合的な学習の時間では、酒蔵見学や杜氏の話や唄を聞くなどして伝統的な酒造りについて知り、仕事の際に唄を歌う必要について考えるなどの学習を行った。



小学校
1～6年生

地域の温泉のよさを伝えよう！

音楽

図画工作

特別活動

- ・地域の温泉をテーマにした音楽劇を制作。児童会活動(特別活動)では、子供たちが、温泉を紹介するスライド画面の制作や演出を担当し、全校集会で地域の人たちに披露した。
- ・音楽では、4年生が温泉にまつわる民謡の歌唱を学習した。また、2年生がつくった旋律に、6年生が副次的な旋律を重ねて、オリジナルの曲に仕上げた。
- ・図画工作では、3年生が伝説の生き物を想像して、表し方を工夫してお面に表した。

中学校
1年生

地域の防災・交通の課題について考え、紙芝居で伝えよう！

音楽

美術

技術・家庭(家庭分野)

総合的な学習の時間

- ・総合的な学習の時間で「学校と地域社会」について学習した際に、地域の防災や交通安全などを啓発する紙芝居を作成して、地域の保育園・幼稚園に通う子供たちに紹介する企画を立てた。
- ・技術・家庭(家庭分野)の「幼児の発達と生活の特徴」で学習したことを踏まえて、美術の授業で立体感のある構図などを工夫しながら、幼児に楽しんでもらえるような紙芝居を作成した。
- ・音楽の授業では、音楽創作アプリを活用してBGMを創作したり、効果音を挿入したりして、より臨場感のある演出を考えた。
- ・グループで配役を分担し、演劇俳優の指導や助言を受けながら台詞の読み方などを工夫した。紙芝居は、学校に隣接する保育園・幼稚園で披露した。

中学校
1～3年生

地域の伝統芸能に親しみ、愛し、伝えていこう！

音楽

総合的な学習の時間

特別活動

- ・音楽の授業では、1年時に地域を舞台にした能を鑑賞し、2年時には声の音色や抑揚などの特徴を捉えながら謡の一部をうたった。
- ・3年生の総合的な学習の時間では、能楽師の方から謡や所作の指導を受け、地域の祭りや能の公演の一場面で演じた。
- ・修学旅行(特別活動)で奈良を訪問し、本物の能舞台で学習成果を披露した。

学校における文化芸術鑑賞・体験推進事業

令和8年度予算額
(前年度予算額)

5,621百万円
5,580百万円)



現状・課題

〔平成29、30年の学習指導要領改訂より〕
 総則において、地域の博物館や美術館、劇場、音楽堂等の施設の活用を積極的に図り、鑑賞等の学習活動を充実することが示されている。
 音楽では、児童生徒が地域の実態に応じて、学校内及び公共施設などの学校外における音楽活動のつながり意識できるようにすることが記載され、図画工作、美術では、美術館や博物館等との連携についての記載の充実が図られている。

将来の文化芸術の担い手や観客育成

未来を担う子供たちに優れた文化芸術体験機会を提供することによって、豊かな人間性の涵養を図るとともに、将来の文化芸術の担い手や観客育成等に資する。

小学校・中学校・特別支援学校等を対象

各家庭において、経済的な格差や文化に対する意識の差等により生じた文化芸術体験格差の解消のため、国内の小・中学校・特別支援学校等を対象に実施する。

文化芸術体験

文化芸術団体による公演等が都市部に集中しないよう、過疎地や山村地域等にある学校に通う子供たちも等しく文化芸術体験を享受できるように努める。

共生社会の実現

障害者芸術団体による学校公演、障害のある子供たちや院内学級等の子供たちも鑑賞しやすい公演の提供を充実させることによって、共生社会の実現へ寄与する。

芸術教育の充実

芸術系教科等を担当する教員等に向けた研修の実施、コンテンツ分野等を活用した授業に関する実践事業を実施することで芸術教育の充実につなげる。

事業内容

① 学校巡回公演

- 国が一流の文化芸術団体を選定し、小学校・中学校・特別支援学校等の授業において実演芸術公演を実施。
- 山間、へき地、離島など、鑑賞機会に恵まれない地域に存する小学校・中学校・特別支援学校等において公演を実施。

② ユニバーサル公演

- 小学校、中学校、特別支援学校等の授業において、障害者芸術団体による公演提供や、障害のある子供たちや院内学級等の子供たちも鑑賞しやすい公演を体育館等で実施。表現の多様性や障害への理解を深めるための活動を支援。
- 共生社会の実現に向け、子供たちと周囲の大人たちが共感し、コミュニティとして芸術団体と共に舞台を創造する機会を支援。

③ 芸術家・クリエイターの派遣

- 日本芸術院会員含む個人又は少人数の芸術家が学校の体育館、講堂等で公演、講話、ワークショップ等を授業内で実施。
- 各都道府県の教育委員会と地域のNPO法人等が連携し、学校と芸術家をコーディネートし、公演等を授業内で実施。
- マンガ・アニメ・ゲーム・映像等の分野で活躍する国内のクリエイターを学校に派遣し、ICT端末等を活用した子供たちの創造力や発想力等の育成に資するクリエイティブな取り組みを授業内で実施。

④ 学校・地域社会連携型公演

- 地域の美術館、音楽ホール等の文化施設を会場とし、アーティストやエドゥケーター等が協力することにより、子供たちがより効果的に鑑賞・体験できる活動を授業内で実施。近隣の学校と連携した合同開催を可能とする。

⑤ コミュニケーション能力向上

- 芸術家による表現手法を用いた継続的なワークショップ等で、芸術家による実技披露に加え、児童・生徒が小集団で協働して、創作や話し合い等のプロセスを重視し、課題解決に取り組む活動を学校の教室等において授業内で実施。
- 地域のNPO法人等が学校と芸術家をコーディネートし、教室等で継続的なワークショップ等を授業内で実施。

〔舞台芸術等総合支援事業〕分

件数：1,876校（予定）

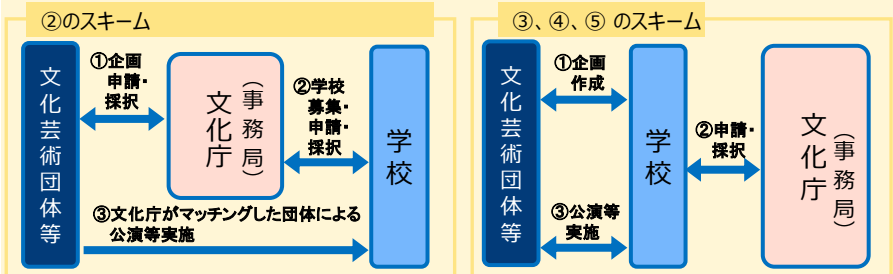
件数：240校（予定）【拡充】8校増

件数：2,990校（予定）

件数：110企画（予定）

件数：200校（予定）

②～⑤の事業スキーム ※①は日本芸術文化振興会にて実施



芸術教育における芸術担当教員等研修

- 小・中・高等学校等において、芸術系大学等と連携し、芸術系教科等を担当する教員等向けに実演鑑賞などを含む実践的な研修を行うことで、教員の資質・能力の向上を図り、芸術教育の充実につなげる。

アウトプット（活動目標）

- 学校巡回公演 1,876校
- ユニバーサル公演 240校
- 芸術家・クリエイターの派遣 2,990校
- 学校・地域社会連携型公演 110企画
- コミュニケーション能力向上 200校

短期アウトカム（成果目標）

1年間に、ホール・劇場、映画館、美術館・博物館などで文化芸術を直接鑑賞したことがない子供の割合（文化に関する世論調査）
→ 目標 30%

長期アウトカム（成果目標）

豊かな創造力・想像力を養うとともに、思考力やコミュニケーション能力など社会人としての素養を身につけ、また、将来の芸術家や観客層を育成、優れた文化芸術の創造につなげる

担当：参事官（芸術文化担当）付

伝統文化親子教室事業

令和8年度予算額
(前年度予算額)

1,488百万円
1,488百万円)



現状・課題

次代を担う子供たちが親子で楽しみながら伝統文化に触れることは、文化的な伝統を尊重する心や先人への尊敬を深めるとともに、創造力と感性を涵養し、将来にわたり伝統文化に継続して携わるきっかけとなる。このため、舞踊等の「伝統文化」、茶道、華道、書道、和装、五節句等の「生活文化」、囲碁、将棋等の「国民娯楽」（以下「伝統文化等」という。）を計画的・継続的に体験・修得できる機会の提供が求められている。また、過疎化や少子高齢化等の社会状況を背景として、地域の伝統行事や芸能、生活文化の担い手が減少し、継承が困難となっていることから、伝統文化等の裾野拡大を図ることは喫緊の課題である。



阿波木偶箱まわし伝承教室
(地域展開型)



邦楽「千寿伝統文化を広める会」
(教室実施型)

事業内容

子供たちが親とともに、舞踊、茶道、華道、書道、和装、五節句、囲碁、将棋などの伝統文化等を体験・修得するきっかけ作りや、体験・修得機会を計画的・継続的に提供する取組を支援

体験機会の提供、幅広い参加の促進

継続的・計画的な体験・修得機会の提供

地方公共団体等が、教室実施型・統括実施型の指導者等と連携し、幅広い伝統文化等の分野に親しむきっかけ作りや、教室実施型が困難な地域での継続的・計画的な体験・修得機会を提供する

地域展開型 388百万円 (388百万円) 事業開始年度：平成30年度
実施主体：地方公共団体及び地方公共団体を中心とする実行委員会等

連携

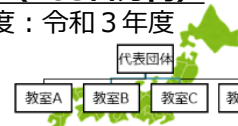
地域の子供たちに計画的・継続的な体験・修得の機会を提供する

教室実施型 806百万円 (806百万円)
事業開始年度：平成26年度
実施主体：伝統文化等に関する活動を行う団体（伝統文化関係団体）等

体験・修得機会の格差解消のため、教室実施型の取組を広域的・組織的に提供する

統括実施型 203百万円 (203百万円)
事業開始年度：令和3年度

実施主体：統括団体等



伝統文化等の確実な継承・発展
子供たちの豊かな人間性の涵養

○審査経費等 91百万円(91百万円)
審査業務のほか、教室に参加した子供や保護者、指導者を対象に事業実施について調査等を行う。

アウトプット (活動目標)

事業実施団体数

	令和6年度	令和7年度	令和8年度
教室実施型	3,200	2,600	2,600
統括実施型	15	12	12
地域展開型	70	90	90

短期アウトカム (成果目標)

伝統文化等を体験する子供の数の増加

- 教室実施型 62,500人
- 統括実施型 11,400人
- 地域展開型 19,200人

中期アウトカム (成果目標)

- 教室実施型・統括実施型
伝統文化親子教室事業に参加した子供の意識が肯定的に変化することを目指す。
- 地域展開型
伝統文化親子教室事業に参加した子供の意識が肯定的に変化することを目指す。

長期アウトカム (成果目標)

- 教室実施型・統括実施型
参加した子供が伝統文化等に関する活動等、継続的に伝統文化等に携わっていることを目指す。
- 地域展開型
参加した子供が体験事業後も伝統文化等に携わっていることを目指す。

劇場・音楽堂等における子供舞台芸術鑑賞体験支援事業

令和8年度予算額
(前年度予算額)

1,900百万円
2,000百万円)



施策の目的

- 子供たちが劇場・音楽堂等において本格的な舞台芸術を鑑賞体験する機会を提供する取組を支援することにより、子供たちが舞台芸術に親しむことができる環境づくりの推進を図る。
- 未来を担う子供たちに優れた文化芸術体験機会を提供することによって、豊かな人間性の涵養を図るとともに、将来の文化芸術の担い手や観客育成等に資する。

事業内容

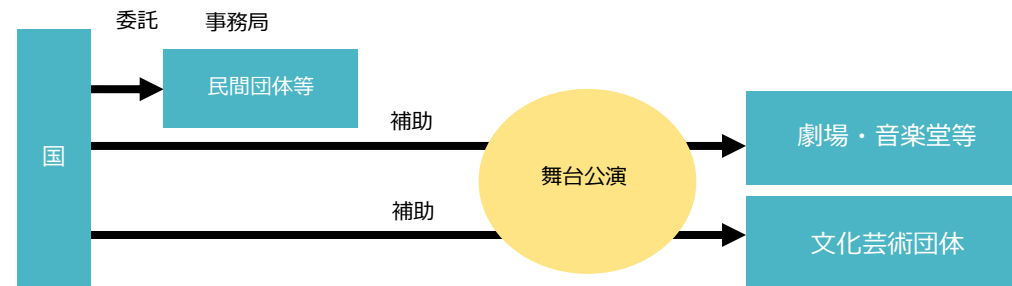
18歳以下の子供が無料で（同伴する保護者等が半額で）鑑賞できる劇場・音楽堂等で行われる本格的な舞台公演（オペラ、バレエ、オーケストラ、歌舞伎、能楽、演劇など）を支援。

● 補助事業者

劇場・音楽堂等の設置者又は管理者、もしくは我が国の実演芸術団体であって、その実演芸術団体を構成する出演者・スタッフ等に高い専門性があること。

● 補助対象事業

舞台公演の専用ホールを有する劇場・音楽堂等で行われる一般向けの有料（最も高い席が5千円以上・東京都以外で開催する公演の場合は3千円以上）の舞台公演であって、18歳以下の子供が無料で（同伴する保護者等が半額で）鑑賞できる公演の当該座席料金を支援。



アウトプット（活動目標）

- ・子供への舞台公演鑑賞機会の提供

短期アウトカム（成果目標）

- ・子供の文化芸術への親しみの向上
- ・豊かな創造力・想像力の涵養
- ・本格的な実演芸術公演の鑑賞機会の拡大

長期アウトカム（成果目標）

- ・子供の文化芸術活動開始
- ・将来の芸術家や観客層の育成を通じた文化芸術活動の推進
- ・地域の劇場・音楽堂等、文化芸術団体等の活性化

伝統音楽指導者研修会

目的

音楽を担当する指導主事等に対し、学習指導要領に基づいた我が国の伝統音楽の指導に係る研修を行い、受講者が各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言を行うことによって、我が国の伝統音楽の指導の充実に図る。

対象者

小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭及び教育委員会の指導主事等
(令和7年度受講者数：161名<実技研修コース：103名、授業実践コース：58名>)

内容

【実技研修コース】

令和6年度と同様に「箏曲(山田流)」、「箏曲(生田流)」、「尺八」、「長唄三味線」、「邦楽囃子〔大鼓、小鼓、太鼓〕」、「邦楽囃子〔笛(篠笛)〕」、「長唄」、「伝統的な歌唱・箏曲(山田流)」、「伝統的な歌唱・謡曲(宝生流)」の9つのコースを開設。
受講者が、東京藝術大学邦楽科の講師からの指導を受け、伝統音楽を授業で扱う上で必要となる知識や技能等の習得を目指す。

【授業実践コース】

学習指導要領に基づく理論や授業実践について、グループ協議を通して指導計画を作成するなどして、各地域で授業づくりに関する指導・助言を行えるようになることを目指す。
(令和7年度は、「箏を中心とした伝統音楽の実践と指導法」をテーマに実施)

全国研修会

目的

学習指導要領の趣旨を踏まえた理論研修・実践研修を実施し、指導方法や評価方法等の工夫改善につなげ、初等中等教育の芸術系教科等における指導の充実に資する。

対象者

小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教諭及び教育委員会の指導主事等
(令和7年度受講者数：630名)

開催時期

年2回 各5日間の実施週間を設定
(令和7年度：9月、12月)

開催場所

全国の芸術系大学等

内容

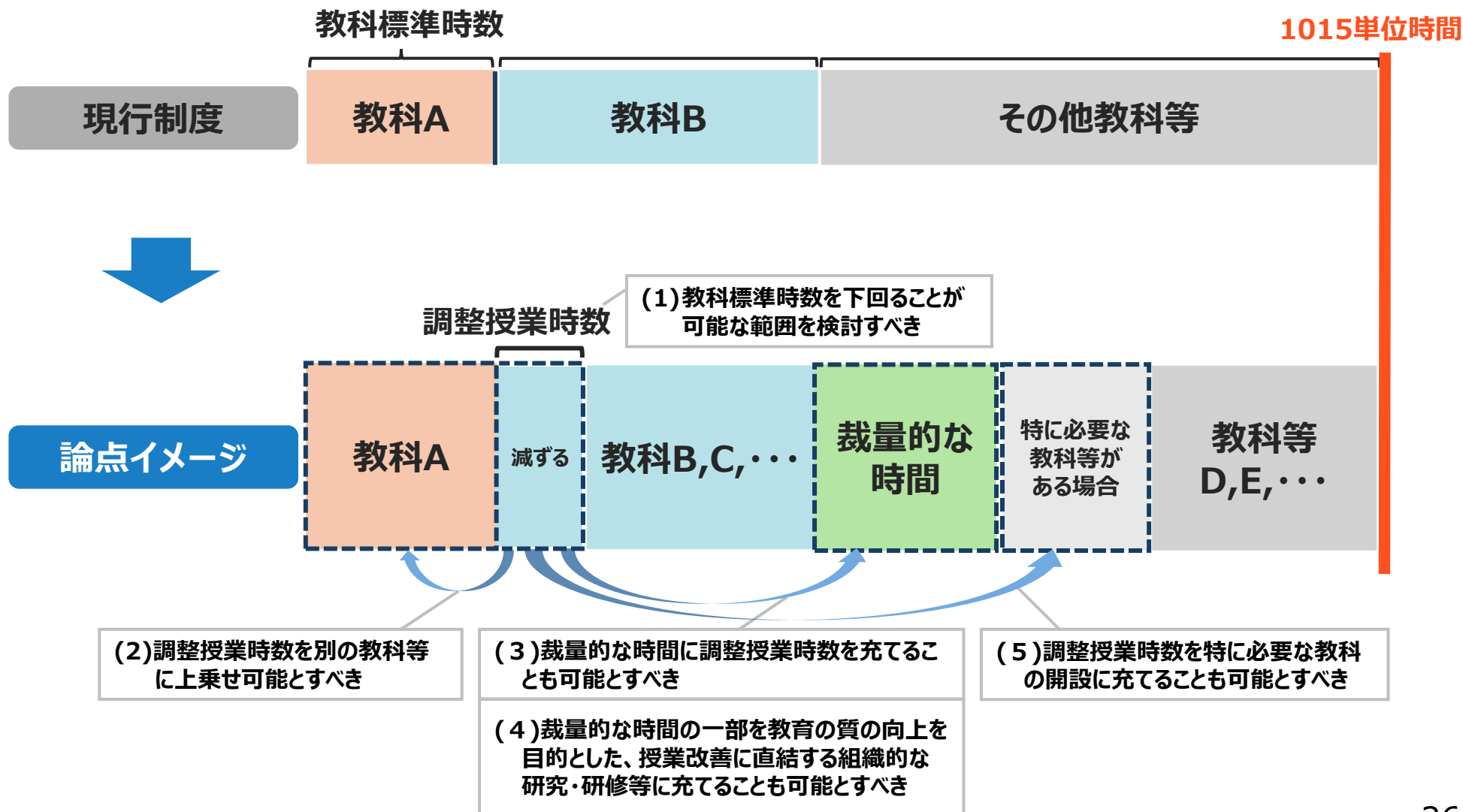
教科調査官等が行う理論研修に加えて、芸術系大学等の講師が、分科会ごとにテーマを設定し、授業づくりにつながる実践的な研修を行う。

令和7年度テーマ(例)

- ・ 複合メディアコンテンツと音楽づくり／歌唱と器楽合奏指導のヒント
- ・ 授業展開と指導実践のヒント～教科等横断的な学び、歌唱・合唱指導のポイント、ICTを活用した音楽づくり～
- ・ 和紙と墨で擬音を連想させる独自の世界を描く
- ・ 中学校美術科、高等学校芸術科(美術)における映像を生かした教育実践のこれから
- ・ 高等学校芸術科書道における墨色を生かした創作指導の工夫－作品の構想と表現の工夫の視点－

義務教育段階の柔軟な教育課程の方向性（調整授業時数制度）

多様な個性や特性、背景を有する子供たちを包摂する柔軟な教育課程編成を促進するため、児童生徒や地域の実態を踏まえて、必要に応じて以下のような取組の一部又は全部の実施を可能とする方向で検討



(参考) 学習指導要領実施状況調査の結果

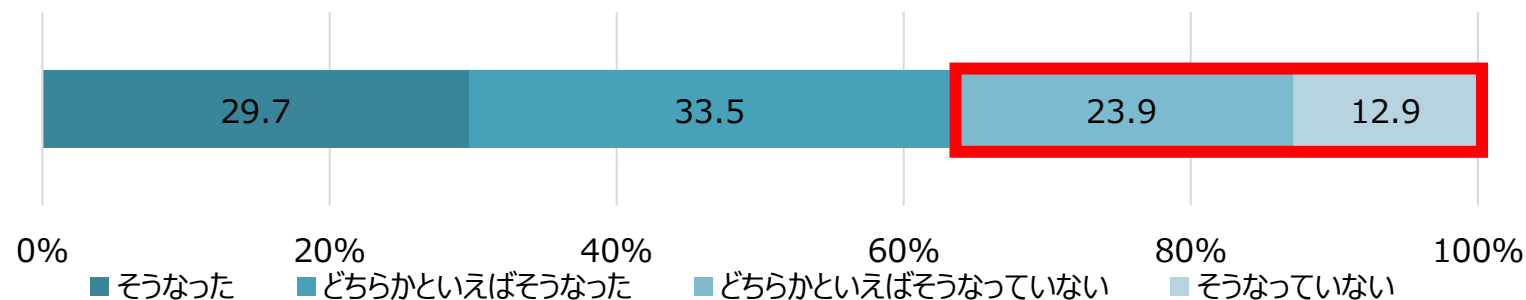
小学校

児童

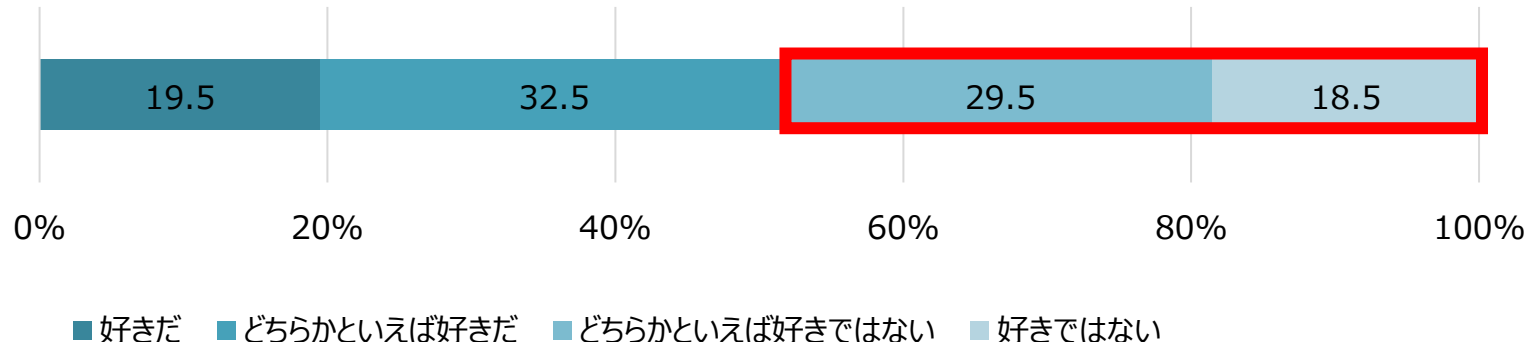
- ✓ 令和4年度小学校学習指導要領実施状況調査（以降、「R4小学校実施状況調査」）において行われた、児童質問紙調査の結果によれば、3割程度の児童が音楽の学習をして日本の音楽や地域の音楽に興味や親しみをもつことができておらず、5割程度の児童が授業で唱歌や日本に古くから伝わる歌を歌うことが好きかについて否定的な回答をしている

音楽科（第6学年）

音楽の学習をして、日本の音楽や地域の音楽に興味や親しみをもつようになった



音楽の授業で、「ふるさと」などの唱歌や、日本に古くから伝わる歌を歌うことが好きだ



※各選択肢を選んだ児童の割合 (%) (重み付き)

(参考) 学習指導要領実施状況調査の結果

小学校

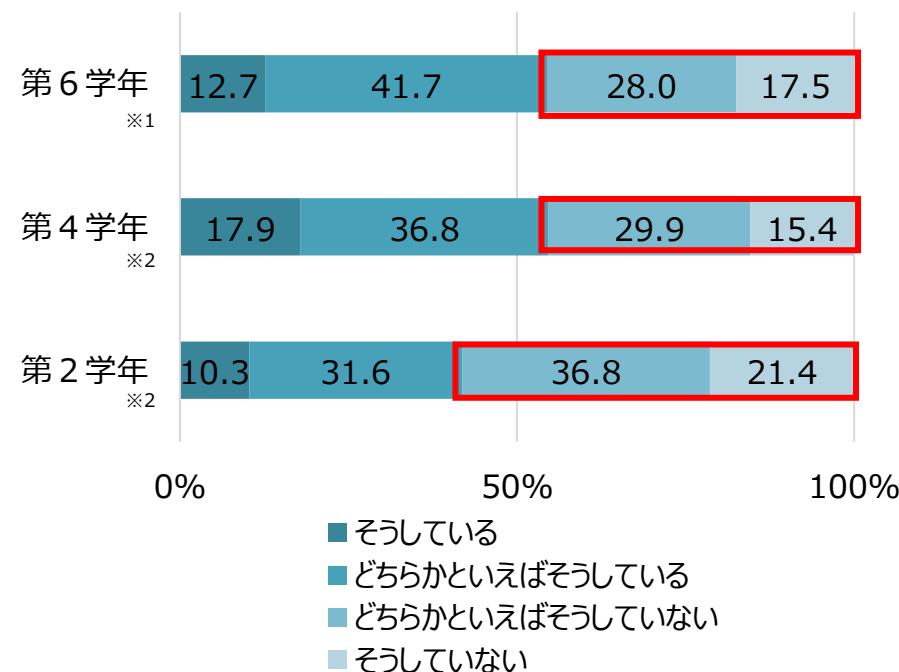
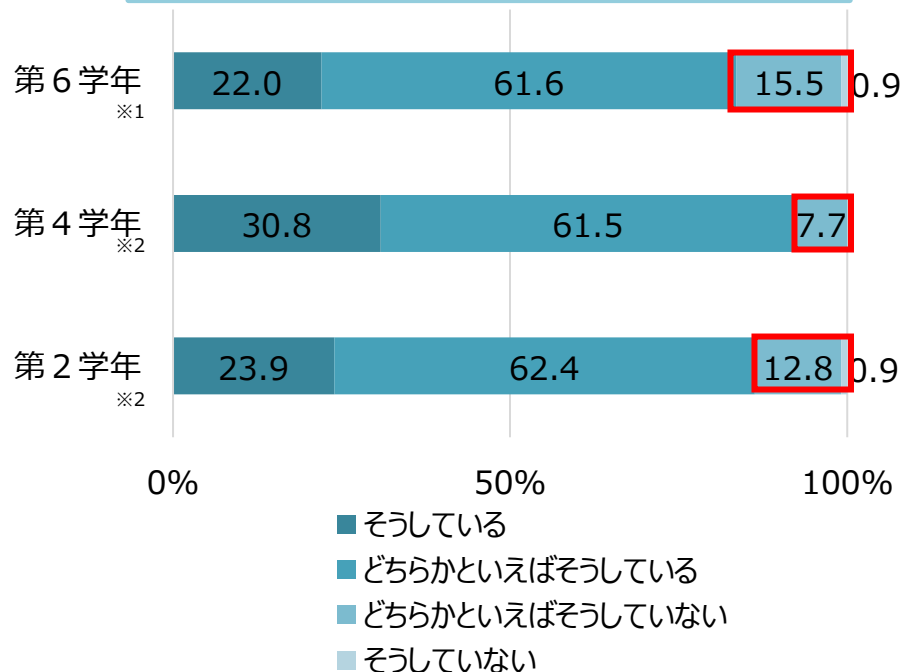
教師

✓ R4小学校実施状況調査において行われた、教師オンライン質問調査の結果によれば、我が国や郷土の音楽の指導方法の工夫については1～2割程度、和楽器の指導を行うために必要な楽器の整備状況については4～6割程度が否定的な回答であった

音楽科

我が国の音楽や郷土の音楽の指導に当たって、そのよさなどを感じ取って表現したり鑑賞したりすることができるよう、指導方法（音源や楽譜等の示し方、伴奏の仕方、曲に合った歌い方や楽器の演奏の仕方など）を工夫している

音楽の授業で和楽器の指導を行うために必要な楽器をそろえることができている



※1 各選択肢を選んだ教師の指導を受けている児童の割合 (%) (重み付き)、※2 各選択肢を選んだ教師の割合 (%) (重みなし)

(参考) 学習指導要領実施状況調査の結果

中学校

生徒

✓ 令和5年度中学校学習指導要領実施状況調査（以降、「R5中学校実施状況調査」）において行われた、生徒質問調査の結果によれば、音楽科の学習における我が国や郷土の伝統音楽、諸外国の様々な音楽などに関する設問に対して約1～3割程度が否定的な回答をしている

音楽科（第3学年）

暫定値

音楽の学習は、我が国の伝統や文化について理解する上で必要だ

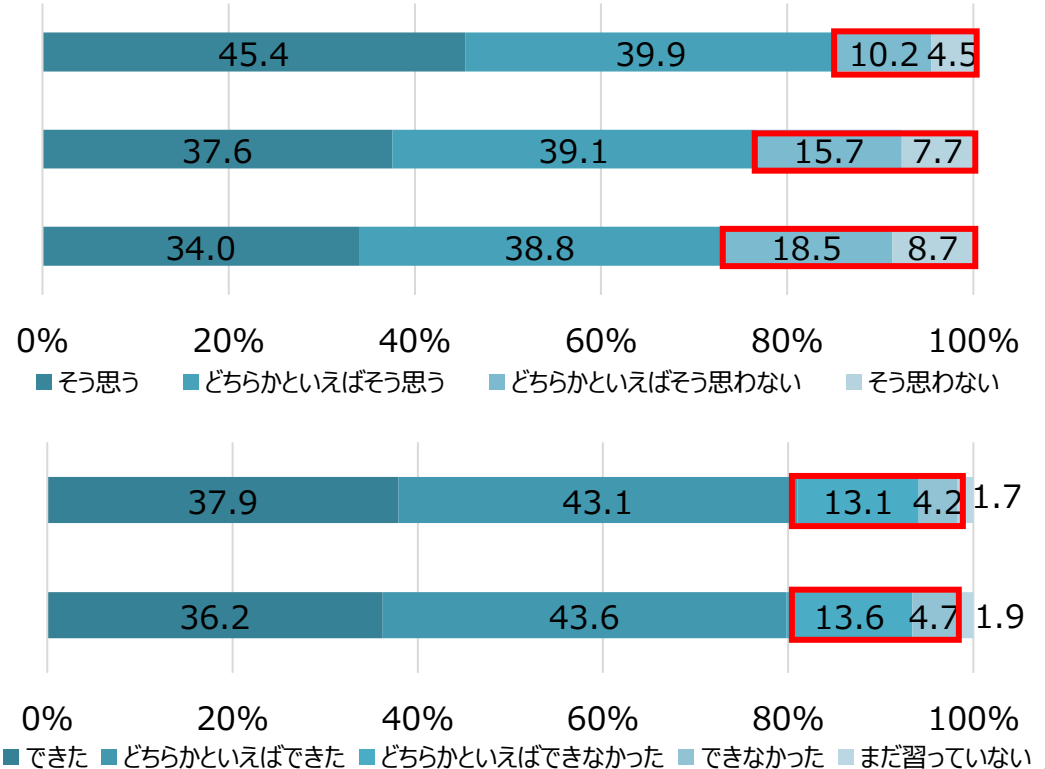
音楽の授業で、我が国や郷土の伝統的なうたを歌唱したり、和楽器を演奏したりすることが楽しいと感じる

音楽の授業で、我が国や郷土の伝統音楽を鑑賞することが楽しいと感じる

【中学校3年生または2年生で学習した内容について】

音楽の特徴とその背景となる文化・歴史、他の芸術との関わりについて考えながら、音楽のよさや美しさを味わって聴くこと

我が国や郷土の伝統音楽、諸外国の様々な音楽の特徴を比較しながら、音楽のよさや美しさを味わって聴くこと



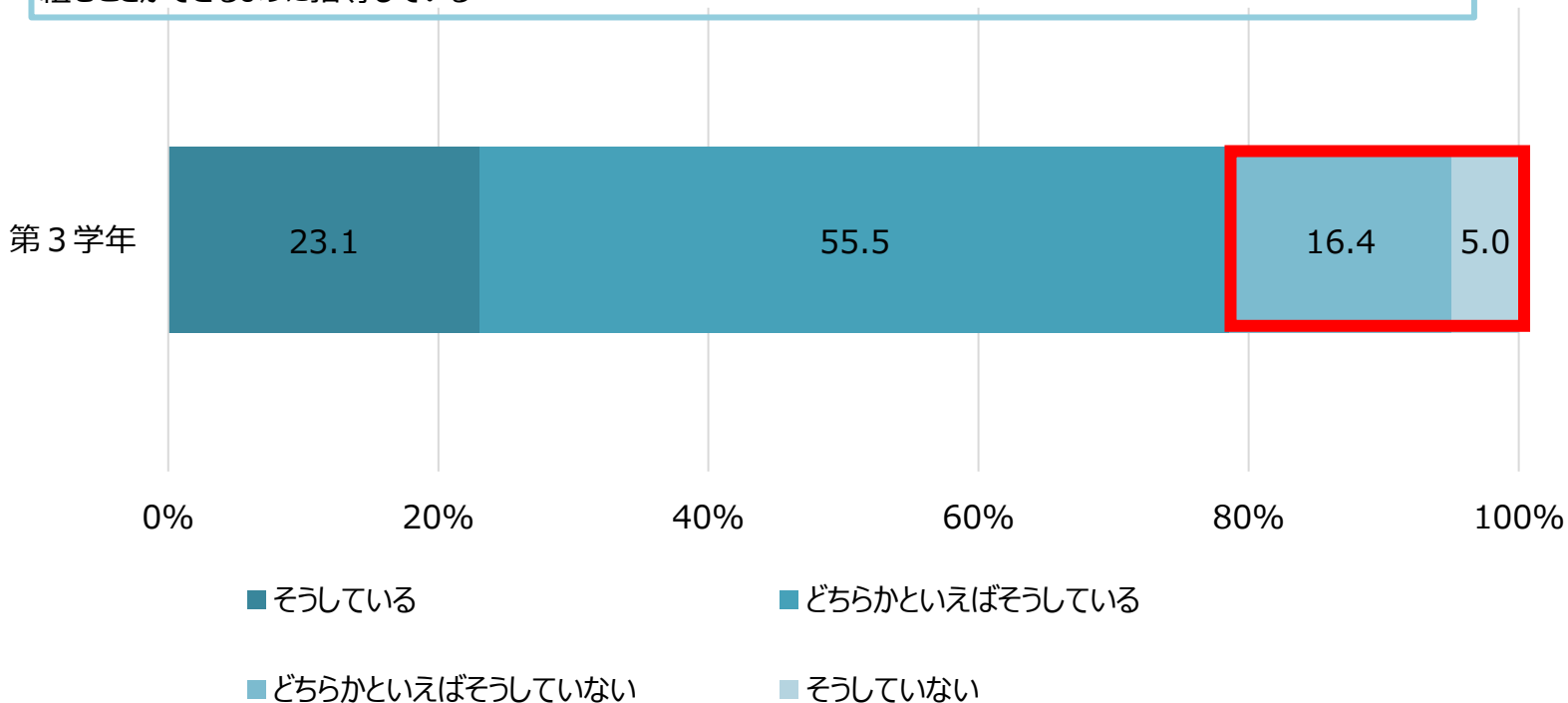
※各選択肢を選んだ生徒の割合 (%) (重み付き)

✓ R5中学校実施状況調査において行われた、教師質問調査の結果によれば、音楽の指導において生徒が我が国の伝統的な歌唱や和楽器の演奏に興味・関心をもって取り組むことができるように指導しているかどうかについて、2割程度が否定的な回答であった

音楽科

暫定値

音楽の指導に関して、生徒が民謡や長唄などの我が国の伝統的な歌唱や和楽器の演奏に興味・関心をもって取り組むことができるように指導している



※各選択肢を選んだ教師の指導を受けている生徒の割合 (%) (重み付き)

(参考) 学習指導要領実施状況調査の結果

高等学校

生徒

- ✓ 令和6年度高等学校学習指導要領実施状況調査（以降、「R6高等学校実施状況調査」）において行われた、生徒質問調査の結果によれば、「音楽Ⅰ」の学習が我が国や郷土の伝統音楽、諸外国の音楽の特徴やよさ、様々な文化や伝統などの理解に役立つかどうかや、我が国や郷土の伝統的なうたや和楽器の演奏、伝統音楽の鑑賞が楽しいかどうかに関する設問に対して1～2割程度の生徒が否定的な回答をしている

芸術科（音楽Ⅰ）

暫定値（第2学年）※1 ※2

「音楽Ⅰ」の学習は、我が国や郷土の伝統音楽、諸外国の音楽の特徴やよさなどを理解する上で役立つ



「音楽Ⅰ」の学習は、我が国や諸外国の様々な文化や伝統などを理解したり尊重したりする上で役立つ



「音楽Ⅰ」の授業で、我が国や郷土の伝統的なうたを歌唱したり、和楽器を演奏したりすることは楽しい



「音楽Ⅰ」の授業で、我が国や郷土の伝統音楽を鑑賞することは楽しい



0% 20% 40% 60% 80% 100%

■ そう思う ■ どちらかといえばそう思う ■ どちらかといえばそう思わない ■ そう思わない

※1 音楽Ⅰの履修を完了した第2学年の生徒を対象に調査を実施

※2 各選択肢を選んだ生徒の割合 (%) (重み付き)

✓ R6高等学校実施状況調査において行われた、生徒質問調査の結果によれば、「音楽Ⅰ」の鑑賞の学習における、我が国や郷土の伝統音楽の種類とそれぞれの特徴への理解について、肯定的な回答は3割にとどまった

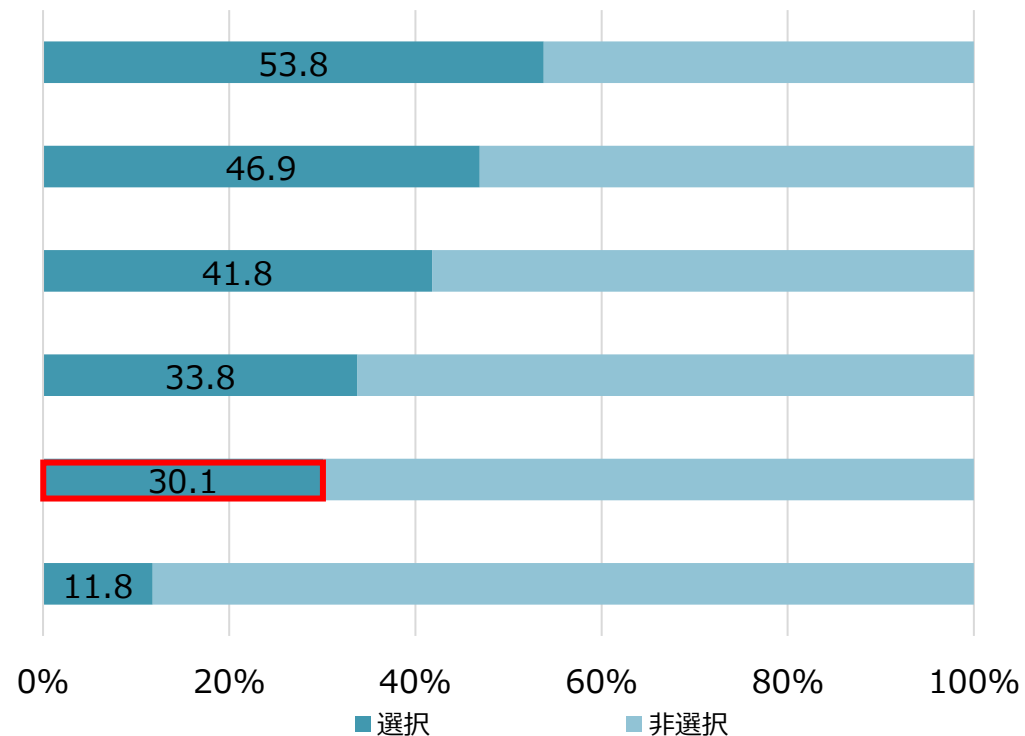
芸術科（音楽Ⅰ）

暫定値 (第2学年)

※1 ※2

鑑賞の学習について、「理解することができた」または「どちらかといえば理解することができた」と感じるもの（複数選択可）

1. 曲想と音楽の構造との関わり
2. 表現上の効果と音楽の構造との関わり
3. 音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わり
4. 音楽の特徴と他の芸術との関わり
5. 我が国や郷土の伝統音楽の種類とそれぞれの特徴
6. 1から5に該当するものはない



※1 音楽Ⅰの履修を完了した第2学年の生徒を対象に調査を実施

※2 各選択肢を選んだ生徒の割合 (%) (重み付き)

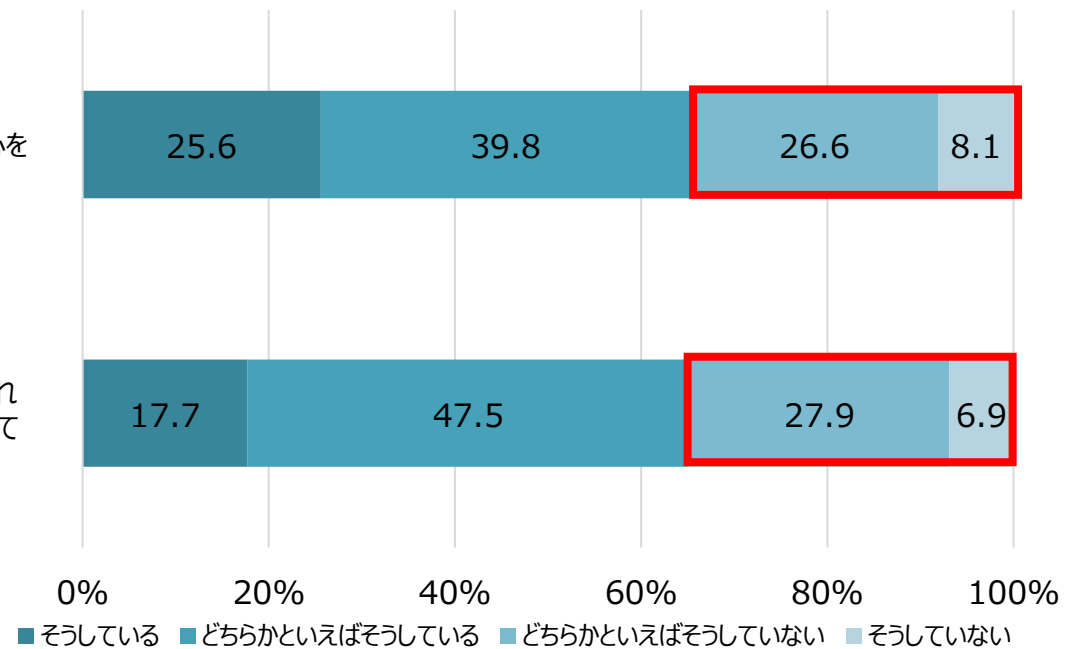
✓ R6高等学校実施状況調査において行われた、教師質問調査の結果によれば、「音楽Ⅰ」において、生徒が、我が国の伝統的な歌唱や和楽器の演奏への興味・関心をもって取り組むことができるように指導したり、我が国や郷土の伝統音楽の特徴を理解する鑑賞の学習との関連を図ったりしながら指導したりしているかどうかについて、3割程度が否定的な回答であった

芸術科（音楽Ⅰ）

暫定値（第2学年）※1 ※2

生徒が、我が国の伝統的な歌唱や和楽器の演奏に興味・関心をもって取り組むことができるように指導している

歌唱や器楽の学習で、我が国や郷土の伝統音楽を扱う際、それぞれの特徴を理解する鑑賞の学習との関連を図りながら指導している



※1 音楽Ⅰの履修を完了した第2学年の生徒への指導を行っていた教師を対象に調査を実施

※2 各選択肢を選んだ教師の指導を受けている生徒の割合(%) (重み付き)

(参考) 学習指導要領実施状況調査の結果

小学校

中学校

高等学校

教師

✓ 教師質問調査の結果によれば、R4小学校実施状況調査、R5中学校実施状況調査及びR6高等学校実施状況調査において、質問項目は異なるものの、我が国や郷土の音楽に対する児童生徒の興味・関心のもちやすさに関する教師の捉えについて、小、中、高等学校へと学校段階が進むにつれて、否定的な回答が増加する傾向がみられる。

音楽科・芸術科（音楽 I）

【児童・生徒の学習状況等について】

小学校

我が国の音楽や郷土の音楽に親しみ、よさを味わったり、愛着をもったりすること

中学校

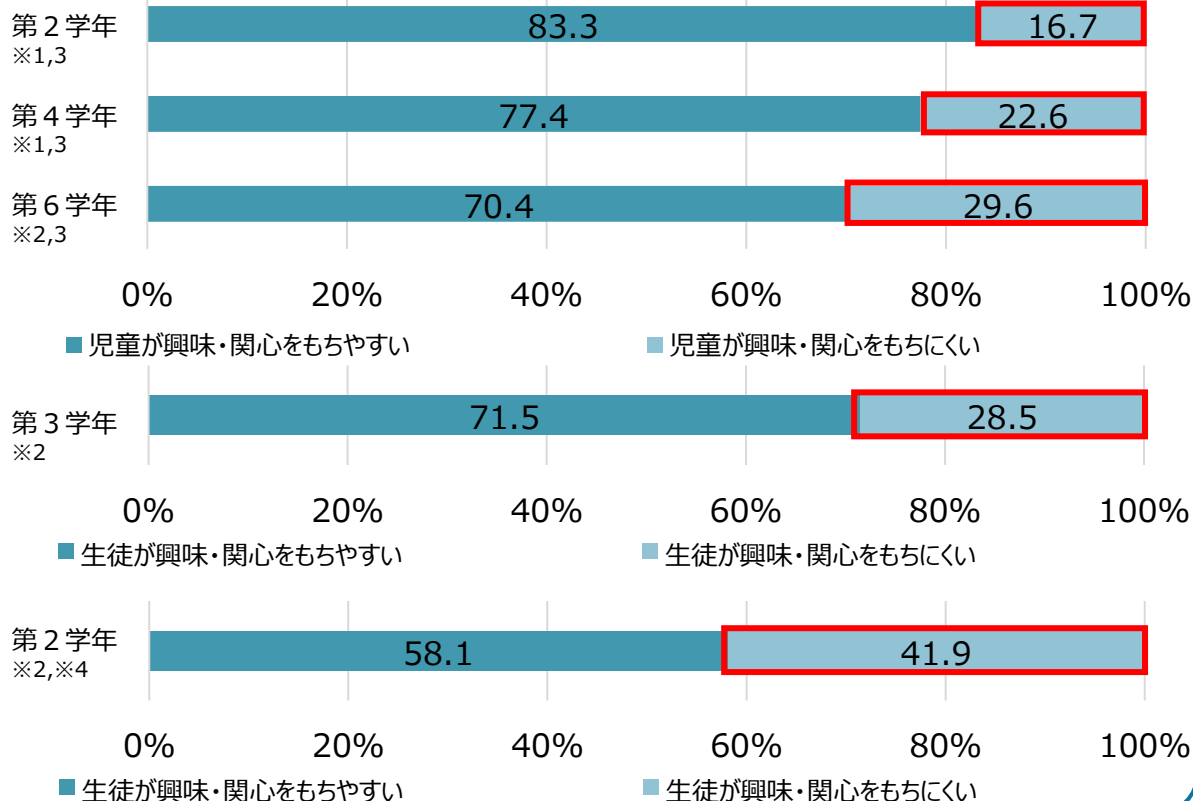
暫定値

我が国や郷土の伝統音楽及び諸外国の様々な音楽の特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性について理解すること

高等学校

暫定値

鑑賞の学習において、我が国や郷土の伝統音楽の種類とそれぞれの特徴について理解すること



※1 各選択肢を選んだ教師の割合 (%) (重みなし)

※3 中学校及び高等学校に合わせて再計算した数値を用いている

※2 各選択肢を選んだ教師の指導を受けている児童生徒の割合 (%) (重み付き)

※4 音楽 I の履修を完了した第2学年の生徒への指導を行っていた教師を対象に調査を実施

(参考) 学習指導要領実施状況調査の結果

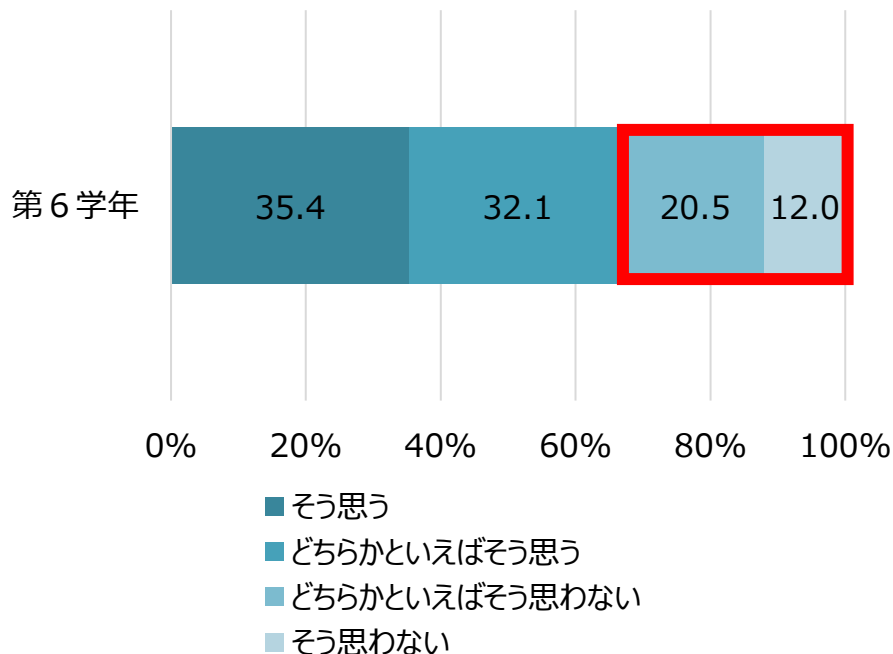
小学校

児童

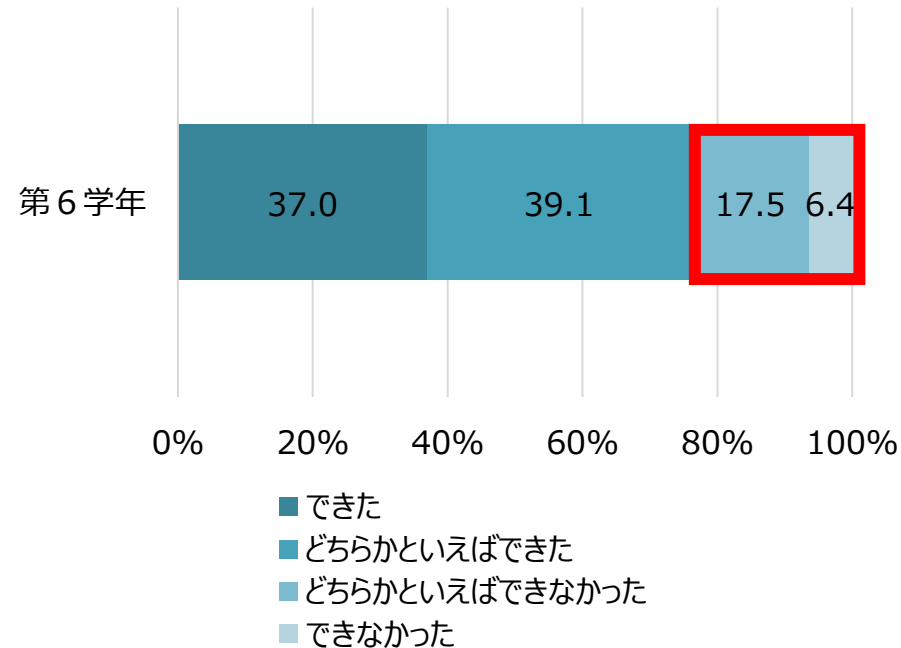
✓ R4小学校実施状況調査において行われた、児童質問紙調査の結果によれば、日本の伝統や文化を感じる作品へ興味や、日本や外国の作品などのよさや美しさなどへの感じ方を深めることについて、2～3割程度が否定的な回答をしている

図画工作科

日本の伝統や文化を感じる作品に興味がある



日本や外国の作品、生活の中の造形などのよさや美しさなどを感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深めること

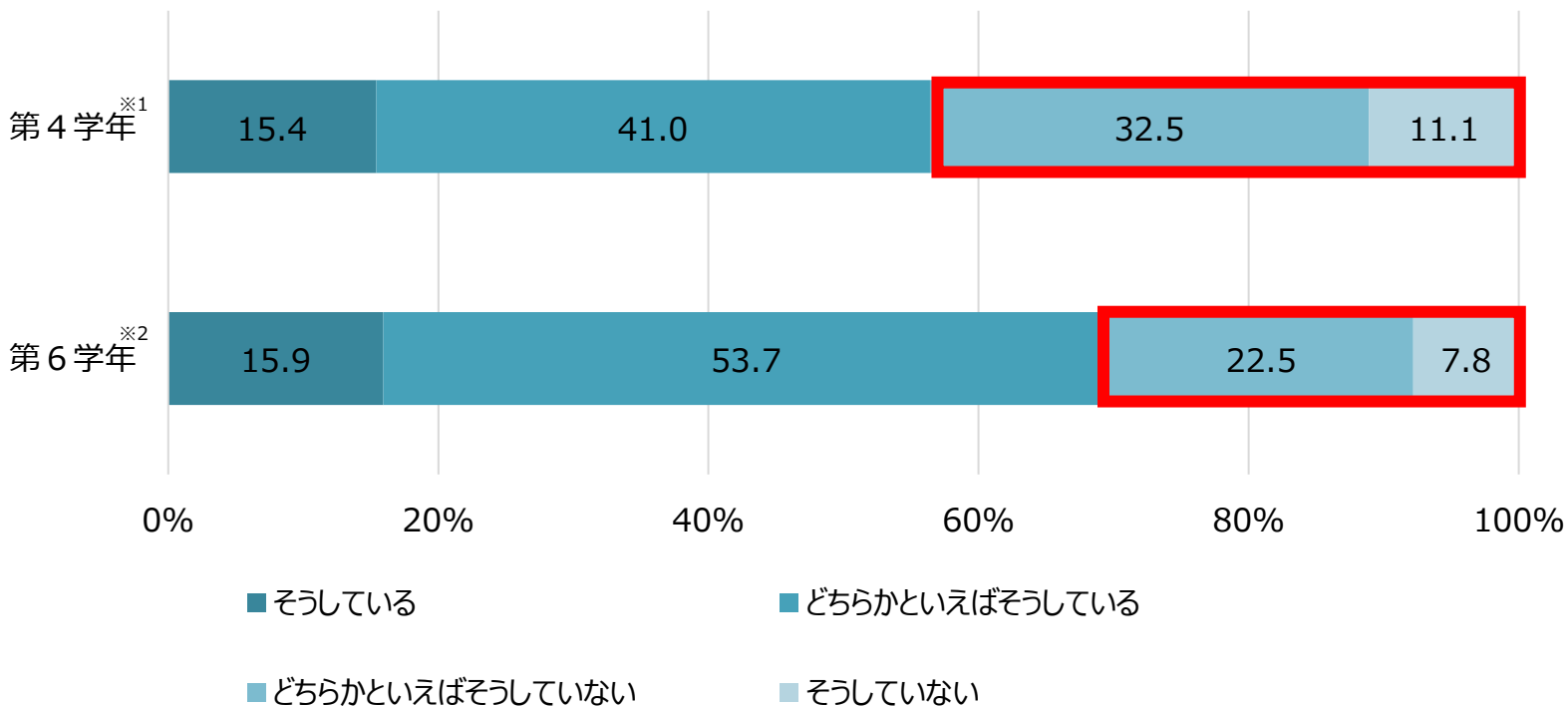


※各選択肢を選んだ児童の割合 (%) (重み付き)

✓ R4小学校実施状況調査において行われた、教師オンライン質問調査の結果によれば、日本の伝統や文化に関する授業の実施状況について、第4学年で4割程度、第6学年で3割程度が否定的な回答であった

図画工作科

図画工作科の学習において、日本の伝統や文化に関連する授業を行っている



※1 各選択肢を選んだ教師の割合 (%) (重みなし)

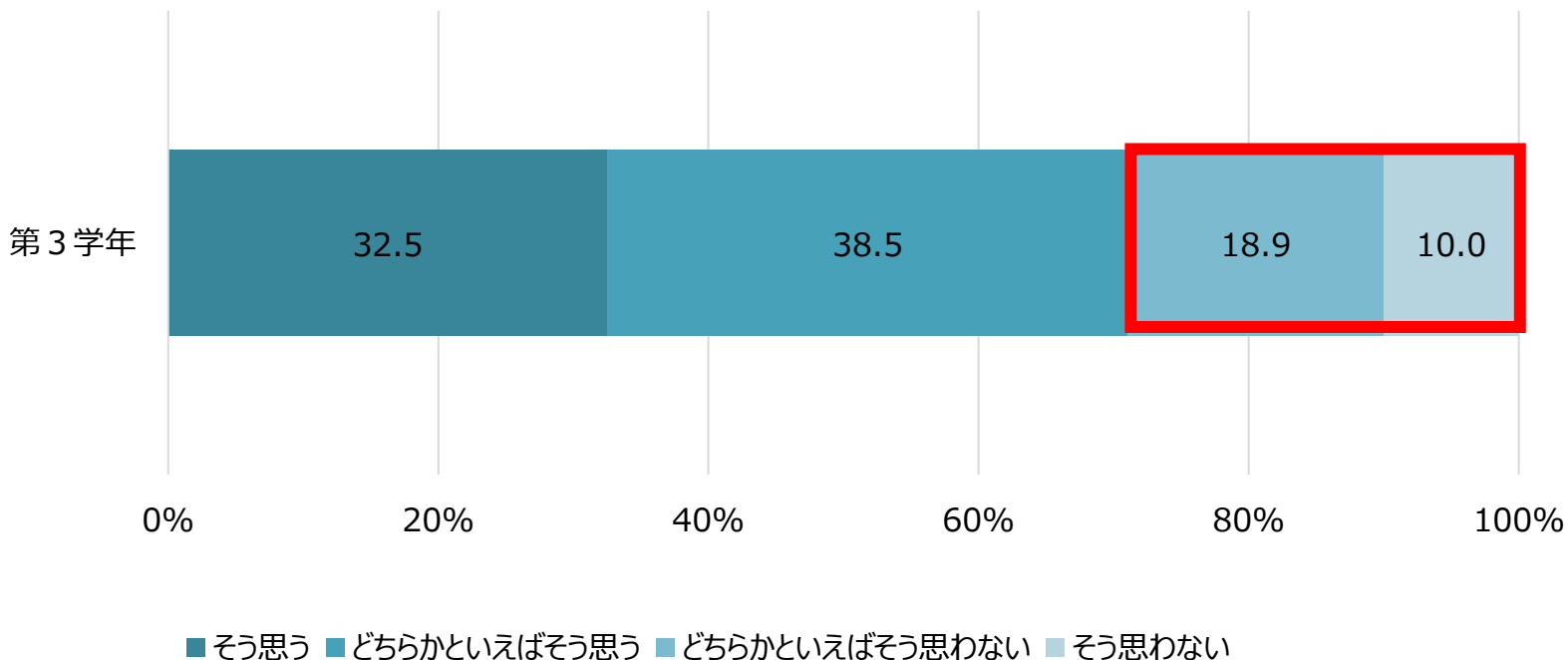
※2 各選択肢を選んだ教師の指導を受けている児童の割合 (%) (重み付き)

✓ R5中学校実施状況調査において行われた、生徒質問調査の結果によれば、美術科の学習を通じた日本の伝統的な美術や文化への興味や関心について、3割程度が否定的な回答をしている

美術科

暫定値

美術を学習することで、日本の伝統的な美術や文化についての興味や関心をもつようになった



※各選択肢を選んだ生徒の割合 (%) (重み付き)

✓ R6高等学校実施状況調査において行われた、教師質問調査の結果によれば、「美術 I」及び「工芸 I」において、美術・工芸作品などから歴史や伝統と文化について考え、見方や感じ方を深めるなどといった指導の工夫について 4 割程度が否定的な回答であった

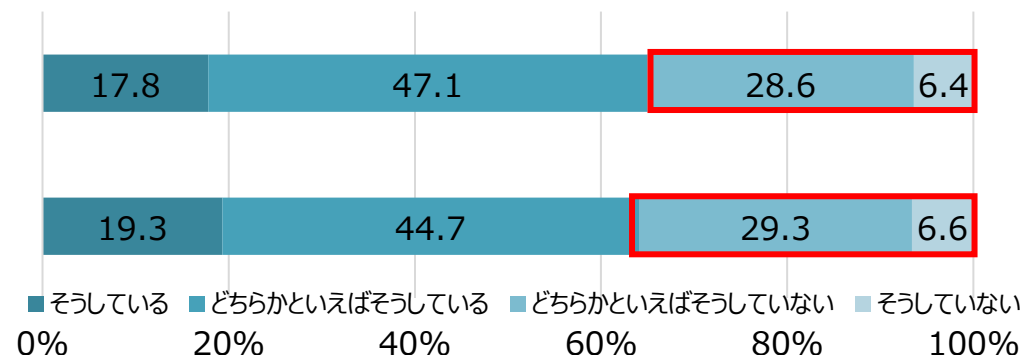
芸術科（美術 I・工芸 I）

暫定値（第 2 学年）※1 ※2

美術 I

鑑賞の授業において、生徒が日本の美術作品などから美意識や創造性、日本の美術の歴史や表現の特質、美術文化について考え、見方や感じ方が深まるような指導の工夫をしている

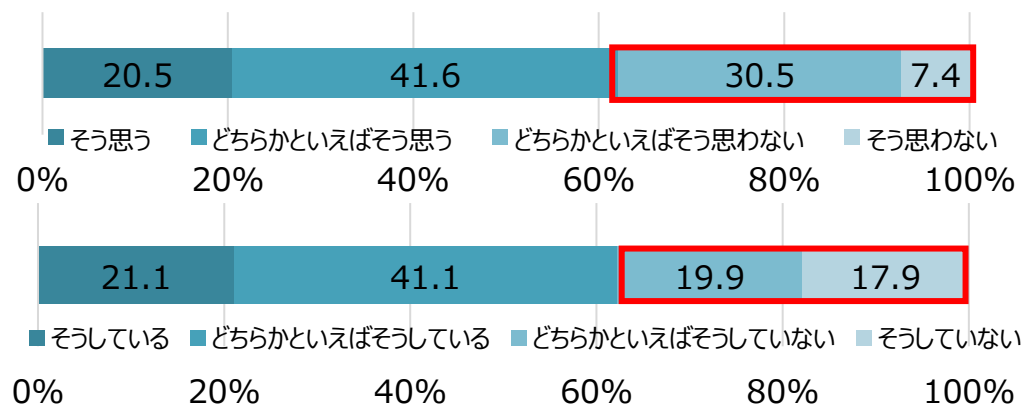
鑑賞の授業において、生徒が日本及び諸外国の美術作品などの相違や共通性、それぞれの国の表現の特質や美術文化について考え、見方や感じ方が深まるような指導の工夫をしている



工芸 I

鑑賞の授業において、生徒が日本及び諸外国の工芸作品などの相違や共通性、それぞれの国の工芸の伝統と文化について考え、見方や感じ方が深まるような指導の工夫をしている

表現の授業において、地域の材料や伝統的な工芸の表現などを取り入れた指導の工夫をしている



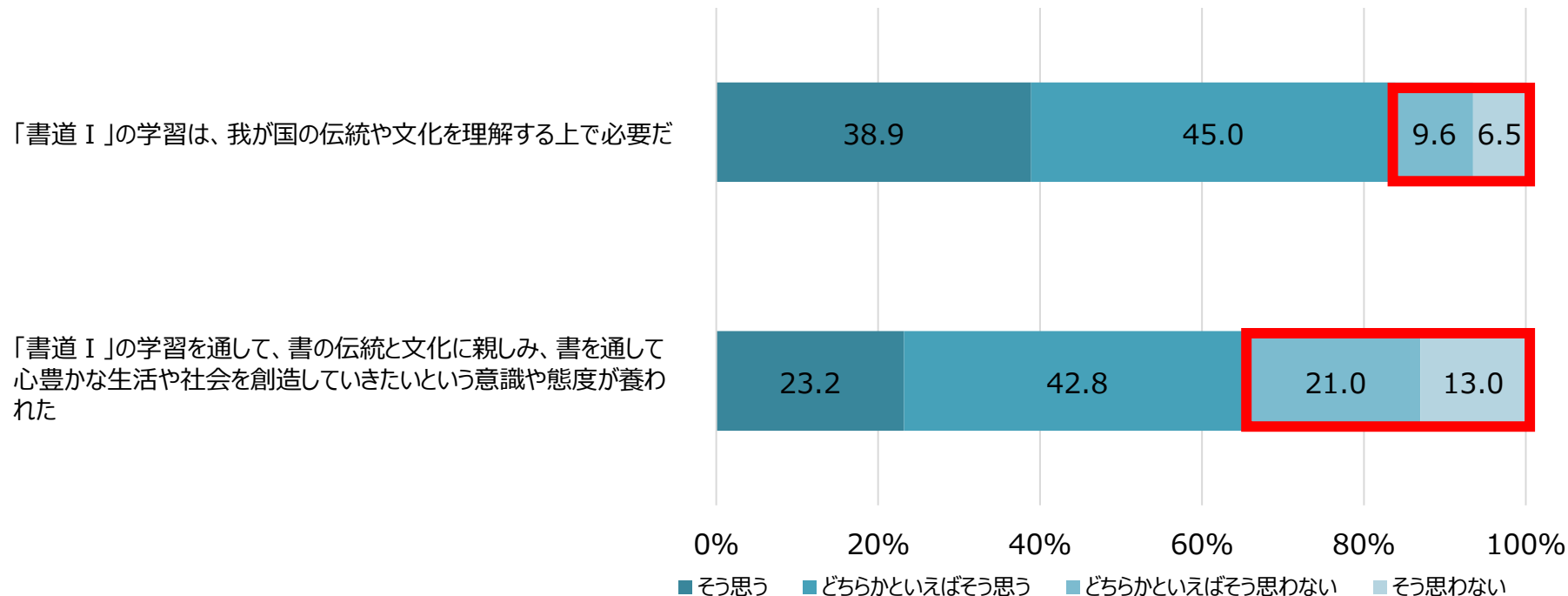
※1 美術 I、工芸 I の履修を完了した第 2 学年の生徒への指導を行っていた教師を対象に調査を実施

※2 各選択肢を選んだ教師の指導を受けている生徒の割合 (%) (重み付き)

✓ R6高等学校実施状況調査において行われた、生徒質問調査の結果によれば、「書道 I」の学習の我が国の伝統や文化の理解への必要性について、2割程度が否定的な回答をしており、学習を通して書の伝統と文化への親しみ、心豊かな生活や社会を創造の意識や態度が養われたかの設問に対しては3割程度が否定的な回答をしている

芸術科（書道 I）

暫定値 (第2学年) ※1 ※2



※1 書道 I の履修を完了した第2学年の生徒を対象に調査を実施

※2 各選択肢を選んだ生徒の割合 (%) (重み付き)

(参考) 学習指導要領実施状況調査の結果

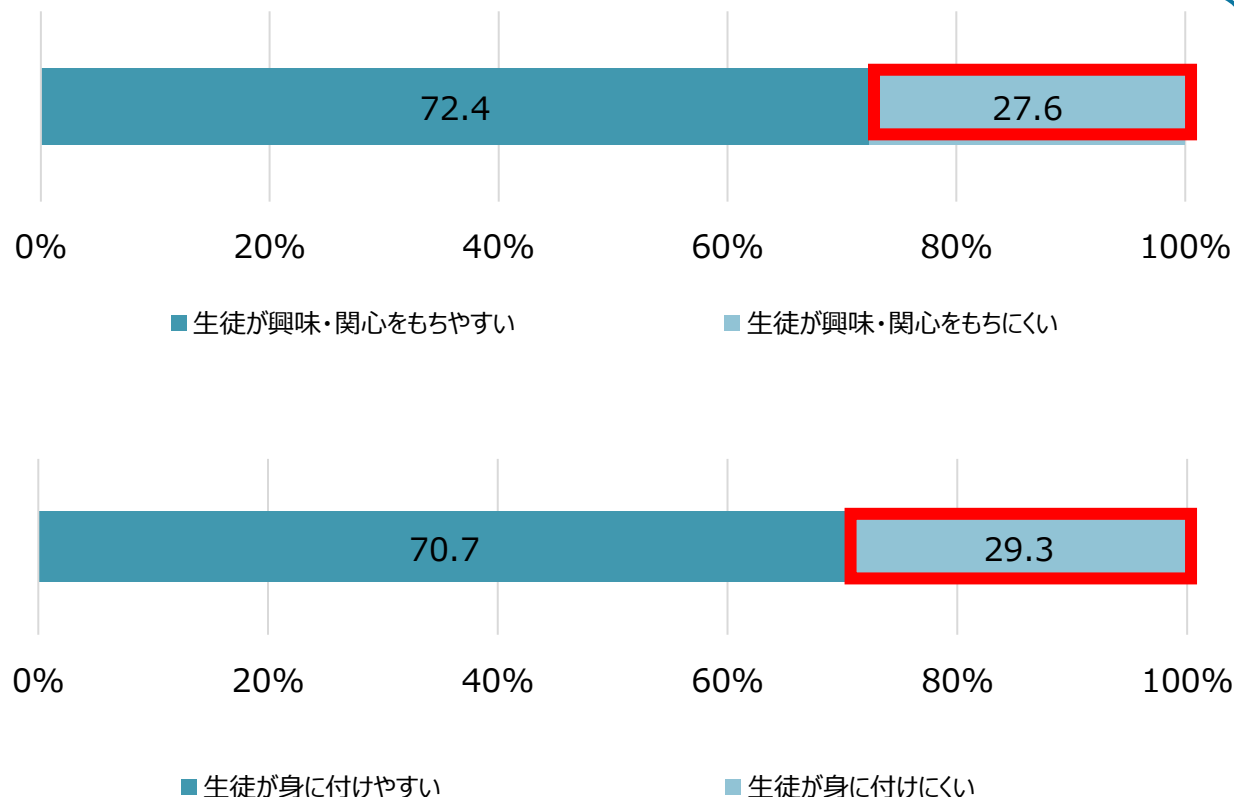
高等学校

教師

✓ R6高等学校実施状況調査において行われた、教師質問調査の結果によれば、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく意識や態度を養うことに対して、生徒の興味・関心のもちやすさと身に付けやすさについて3割程度が否定的な回答であった

芸術科（書道Ⅰ）

暫定値（第2学年）※1 ※2



学習活動を通して、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していきたいという意識や態度を養うこと

※1 書道Ⅰの履修を完了した第2学年の生徒への指導を行っていた教師を対象に調査を実施

※2 各選択肢を選んだ教師の指導を受けている生徒の割合 (%) (重み付き)

小・中・高等学校 音楽の目標等について〈改善案〉

目標・柱書

小学校音楽	表現及び鑑賞の活動を通して、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す
中学校音楽	表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す
高校芸術	芸術の幅広い活動を通して、生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す
音楽Ⅰ	音楽の幅広い活動を通して、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
音楽 小学校	音楽を発想豊かに表現したり鑑賞したりするために必要な知識及び技能を身に付けるようにする	音楽表現についての思いや意図をもって表現したり、音楽を味わって聴いたりすることができるようにする	楽しさを味わいながら主体的・協働的に音楽活動に取り組み、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育むとともに、創造的に音楽に関わり親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培う
音楽 中学校	音楽を創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な知識及び技能を身に付けるようにする	音楽表現について考え、思いや意図をもって創造的に表現したり、価値を見いだしながら音楽のよさや美しさなどを味わって聴いたりすることができるようにする	楽しさを味わいながら主体的・協働的に音楽活動に取り組み、音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、創造的に音楽や音楽文化に関わり親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培う
高校芸術	各芸術分野の特質や芸術文化について理解するとともに、創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする	思いや意図に基づいて考え、工夫して創造的に表現したり、価値意識をもって芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする	生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、芸術や芸術文化に関わり親しみ、芸術によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う
音楽Ⅰ	イメージをもって音楽を創造的に表現したり、曲や演奏のよさや美しさなどを捉えて創造的に鑑賞したりするために必要な知識及び技能を身に付けるようにする	自己のイメージに基づいた音楽表現について考え、表現意図をもって創造的に表現することや、音楽のよさや美しさなどを自ら味わって聴くことができるようにする	主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、創造的に音楽や音楽文化に関わり親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養い、豊かな情操を培う

見方・考え方

小学校音楽 中学校音楽 高等学校芸術（音楽Ⅰ）	感性や想像力を働かせ、対象や事象を、音や音楽、文化などの視点で捉え、意味や価値を見いだすこと
高校芸術	感性や想像力を働かせ、対象や事象を、美を構成する要素とその働き、文化などの視点で捉え、芸術の意味や価値を追求すること

高等学校芸術（音楽）の目標等について〈改善案〉

目標・柱書

高校芸術	芸術の幅広い活動を通して、生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す
音楽Ⅰ	音楽の幅広い活動を通して、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す
音楽Ⅱ	音楽の諸活動を通して、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す
音楽Ⅲ	音楽の諸活動を通して、生活や社会の中の多様な音や音楽、音楽文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
高校芸術	各芸術分野の特質や芸術文化について理解するとともに、創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする	思いや意図に基づいて考え、工夫して創造的に表現したり、価値意識をもって芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする	生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、芸術や芸術文化に関わり親しみ、芸術によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う
音楽Ⅰ	イメージをもって音楽を創造的に表現したり、曲や演奏のよさや美しさなどを捉えて創造的に鑑賞したりするために必要な知識及び技能を身に付けるようにする	自己のイメージに基づいた音楽表現について考え、表現意図をもって創造的に表現することや、音楽のよさや美しさなどを自ら味わって聴くことができるようにする	主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、創造的に音楽や音楽文化に関わり親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養い、豊かな情操を培う
音楽Ⅱ	創意工夫を生かして音楽を創造的に表現したり、曲や演奏の価値を見いだしながら創造的に鑑賞したりするために必要な知識及び技能を身に付けるようにする	個性豊かな音楽表現について考え、表現意図をもって創造的に表現することや、音楽を評価しながらよさや美しさなどを味わって聴くことができるようにする	主体的・協働的に音楽の諸活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を磨き、創造的に音楽や音楽文化に関わり親しみ、音楽によって心豊かな生活や社会を築いていく態度を養い、豊かな情操を培う
音楽Ⅲ	音楽を創意工夫や表現上の効果を生かして創造的に表現したり、芸術としての音楽の価値を見いだしながら創造的に鑑賞したりするために必要な知識及び技能を身に付けるようにする	音楽に関する知識や技能を総合的に働かせながら、個性豊かな音楽表現について考え、表現意図をもって創造的に表現することや、音楽を解釈したり評価したりしながらよさや美しさなどを味わって聴くことができるようにする	主体的・協働的に音楽の諸活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を磨き、音楽や音楽文化に関わりそれらを尊重し、音楽によって心豊かな生活や社会を築いていく態度を養い、豊かな情操を培う

見方・考え方

高等芸術	感性や想像力を働かせ、対象や事象を、美を構成する要素とその働き、文化などの視点で捉え、芸術の意味や価値を追求すること
音楽Ⅰ、音楽Ⅱ、音楽Ⅲ	感性や想像力を働かせ、対象や事象を、音や音楽、文化などの視点で捉え、意味や価値を見いだすこと

小・中・高等学校 図画工作・美術・工芸の目標等について〈改善案〉

目標・柱書

小学校図画工作	表現及び鑑賞の活動を通して、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す
中学校美術	表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す
高校芸術	芸術の幅広い活動を通して、生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す
美術Ⅰ	美術の幅広い創造活動を通して、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す
工芸Ⅰ	工芸の幅広い創造活動を通して、美的体験を重ね、生活や社会の中の工芸や工芸の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
小学校	対象や事象を捉える造形的な視点や造形の働きについて理解するとともに、表現方法に応じて材料、用具を使ったり、表現の特徴を捉えたりすることができるようにする	造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方の工夫などについて考え、創造的に表現したり、作品などに対する自分の見方や感じ方を深めたりすることができるようにする	つくりだす喜びを味わいながら、主体的・協働的に造形的な創造活動に取り組むとともに、感性を育み、楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養い、豊かな情操を培う
中学校	対象や事象を捉える造形的な視点、美術の働きや美術文化について理解するとともに、創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする	造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫などについて考え、豊かに発想し構想を練って創造的に表現したり、美術作品などに対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする	創造することの喜びを味わいながら、主体的・協働的に美術の創造活動に取り組むとともに、美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、美術や美術文化に関わり親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う
高校	各芸術分野の特質や芸術文化について理解するとともに、創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする	思いや意図に基づいて考え、工夫して創造的に表現したり、価値意識をもって芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする	生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、芸術や芸術文化に関わり親しみ、芸術によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う
美術Ⅰ	対象や事象を捉える造形的な視点、美術の働きや美術文化について幅広く理解するとともに、創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫などについて考え、個性豊かに発想し構想を練って創造的に表現したり、価値意識をもって美術作品などに対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする	主体的・協働的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術や美術文化に関わり親しみ、美術によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う
工芸Ⅰ	対象や事象を捉える造形的な視点、工芸の働きや工芸の伝統と文化について幅広く理解するとともに、創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫などについて考え、心豊かに発想し構想を練って創造的に表現したり、価値意識をもって工芸作品などに対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする	主体的・協働的に工芸の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり工芸を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、工芸や工芸の伝統と文化に関わり親しみ、工芸によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う

見方・考え方

小学校図画工作 中学校美術 高校芸術（美術Ⅰ・工芸Ⅰ）	感性や想像力を働かせ、対象や事象を、造形的、文化的な視点で捉え、意味や価値をつくりだすこと
高校芸術	感性や想像力を働かせ、対象や事象を、美を構成する要素とその働き、文化などの視点で捉え、芸術の意味や価値を追求すること

高等学校芸術（美術）の目標等について〈改善案〉

目標・柱書

高校芸術	芸術の幅広い活動を通して、生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す
美術Ⅰ	美術の幅広い創造活動を通して、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す
美術Ⅱ	美術の創造的な諸活動を通して、美的体験を深め、生活や社会の中の美術や美術文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す
美術Ⅲ	美術の創造的な諸活動を通して、美的体験を豊かにし、生活や社会の中の多様な美術や美術文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
高校芸術	各芸術分野の特質や芸術文化について理解するとともに、創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする	思いや意図に基づいて考え、工夫して創造的に表現したり、価値意識をもって芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする	生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、芸術や芸術文化に関わり親しみ、芸術によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う
美術Ⅰ	対象や事象を捉える造形的な視点、美術の働きや美術文化について幅広く理解するとともに、創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫などについて考え、個性豊かに発想し構想を練って創造的に表現したり、価値意識をもって美術作品などに対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする	主体的・協働的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術や美術文化に関わり親しみ、美術によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う
美術Ⅱ	対象や事象を捉える造形的な視点、美術の働きや美術文化について理解を深めるとともに、創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫などについて考え、個性豊かに発想し構想を練って創造的に表現したり、自己の価値観を高めて美術作品などに対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする	主体的・協働的に美術の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を高め、美術や美術文化に関わり親しみ、美術によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う
美術Ⅲ	対象や事象を捉える造形的な視点、美術の働きや美術文化について理解を深めるとともに、創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする	造形的なよさや美しさ、独創的な表現の意図と創意工夫などについて考え、個性を生かして発想し構想を練って創造的に表現したり、自己の価値観を働かせて美術作品などに対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする	主体的・協働的に美術の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を磨き、美術や美術文化に関わりそれらを尊重し、美術によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う

見方・考え方

高校芸術	感性や想像力を働かせ、対象や事象を、美を構成する要素とその働き、文化などの視点で捉え、芸術の意味や価値を追求すること
美術Ⅰ、美術Ⅱ、美術Ⅲ	感性や想像力を働かせ、対象や事象を、造形的、文化的な視点で捉え、意味や価値をつくりだすこと

高等学校芸術（工芸）の目標等について〈改善案〉

目標・柱書

高校芸術	芸術の幅広い活動を通して、生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す
工芸Ⅰ	工芸の幅広い創造活動を通して、美的体験を重ね、生活や社会の中の工芸や工芸の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す
工芸Ⅱ	工芸の創造的な諸活動を通して、美的体験を深め、生活や社会の中の工芸や工芸の伝統と文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す
工芸Ⅲ	工芸の創造的な諸活動を通して、美的体験を豊かにし、生活や社会の中の多様な工芸や工芸の伝統と文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
高校芸術	各芸術分野の特質や芸術文化について理解するとともに、創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする	思いや意図に基づいて考え、工夫して創造的に表現したり、価値意識をもって芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする	生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、芸術や芸術文化に関わり親しみ、芸術によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う
工芸Ⅰ	対象や事象を捉える造形的な視点、工芸の働きや工芸の伝統と文化について幅広く理解するとともに、創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫などについて考え、心豊かに発想し構想を練って創造的に表現したり価値意識をもって工芸作品などに対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする	主体的・協働的に工芸の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり工芸を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、工芸や工芸の伝統と文化に関わり親しみ、工芸によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う
工芸Ⅱ	対象や事象を捉える造形的な視点、工芸の働きや工芸の伝統と文化について理解を深めるとともに、創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫などについて考え、個性豊かに発想し構想を練って創造的に表現したり、自己の価値観を高めて工芸作品などに対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする	主体的・協働的に工芸の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり工芸を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を高め、工芸や工芸の伝統と文化に関わり親しみ、工芸によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う
工芸Ⅲ	対象や事象を捉える造形的な視点、工芸の働きや工芸の伝統と文化について理解を深めるとともに、創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする	造形的なよさや美しさ、独創的な表現の意図と創意工夫などについて考え、個性を生かして発想し構想を練って創造的に表現したり、自己の価値観を働かせて工芸作品などに対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする	主体的・協働的に工芸の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり工芸を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を磨き、工芸や工芸の伝統と文化に関わりそれらを尊重し、工芸によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う

見方・考え方

高校芸術	感性や想像力を働かせ、対象や事象を、美を構成する要素とその働き、文化などの視点で捉え、芸術の意味や価値を追求すること
工芸Ⅰ、工芸Ⅱ、工芸Ⅲ	感性や想像力を働かせ、対象や事象を、造形的、文化的な視点で捉え、意味や価値をつくりだすこと

高等学校芸術（書道）の目標等について〈改善案〉

目標・柱書

高校芸術	芸術の幅広い活動を通して、生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す
書道Ⅰ	書道の幅広い活動を通して、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力について、次のとおり育成することを目指す
書道Ⅱ	書道の創造的な諸活動を通して、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と深く関わる資質・能力について、次のとおり育成することを目指す
書道Ⅲ	書道の創造的な諸活動を通して、生活や社会の中の多様な文字や書、書の伝統と文化と深く関わる資質・能力について、次のとおり育成することを目指す

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
高校芸術	各芸術分野の特質や芸術文化について理解するとともに、創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする	思いや意図に基づいて考え、工夫して創造的に表現したり、価値意識をもって芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする	生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、芸術や芸術文化に関わり親しみ、芸術によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う
書道Ⅰ	書の特徴、伝統と文化について幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、効果的、創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする	書の伝統と文化の意味や価値について考え、構想し工夫することにより効果的、創造的に表現したり、価値意識をもって書のよさや美しさを味わい捉えたりすることができるようにする	主体的・協働的に書道の幅広い創造的な活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に関わり親しみ、書によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う
書道Ⅱ	書の特徴、伝統と文化について理解を深めるとともに、創造的、個性的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする	書の伝統と文化の意味や価値について考え、構想し工夫することにより創造的、個性的に表現したり、価値意識をもって書のよさや美しさを味わい捉えたりすることができるようにする	主体的・協働的に書道の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に関わりそれを尊重し、書によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う
書道Ⅲ	書の特徴、伝統と文化について理解を深めるとともに、創造的、個性的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする	書の伝統と文化の意味や価値について考え、構想し工夫することにより創造的、個性的に表現したり、価値意識をもって書のよさや美しさを味わい捉えたりすることができるようにする	主体的・協働的に書道の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を磨き、書の伝統と文化に関わりそれを尊重し、書によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う

見方・考え方

高校芸術	感性や想像力を働かせ、対象や事象を、美を構成する要素とその働き、文化などの視点で捉え、芸術の意味や価値を追求すること
書道Ⅰ、書道Ⅱ、書道Ⅲ	感性を働かせ、文字や書を、書の美を構成する要素とその働き、伝統と文化などの視点で捉え、意味や価値を追求すること

音楽（小学校）

思考力、判断力、表現力等

目標

思考力、判断力、表現力等

音楽表現についての思いや意図をもって表現したり、音楽を味わって聴いたりすることができるようにする

内容

領域	区分	高次の資質・能力 【思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮】	資質・能力（概略）
表現	歌唱・器楽	音や音楽について知覚・感受したことをよりどころに思考を巡らせ、曲の特徴を生かした表現に対する思いや意図をもち、自分や他者にとって歌唱や器楽による表現がもつ意味や価値を 実感しながら 、音楽表現を深めることができる	<p>【共通事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> 音楽を形づくっている要素とその働きとの関わりについて考えること 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて考え、曲の特徴を生かした表現を工夫し、どのように表現するかについて思いや意図をもって歌ったり演奏したりすること
	音楽づくり	音や音楽について知覚・感受したことをよりどころに思考を巡らせ、発想を得たり思いや意図をもったりし、自分や他者にとって創作による表現がもつ意味や価値を 実感しながら 、創作表現を深めることができる	<p>【共通事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> 音楽を形づくっている要素とその働きとの関わりについて考えること 設定した条件に基づいて、即興的に表現することを通して、音楽づくりの様々な発想を得ること 設定した条件に基づいて、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもって音楽をつくって表すこと
鑑賞		音や音楽について知覚・感受したことをよりどころに思考を巡らせ、曲全体を見通しながら聴き、自分や他者にとって鑑賞がもつ意味や価値を 実感しながら 、音楽を聴き深めることができる	<p>【共通事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> 音楽を形づくっている要素とその働きとの関わりについて考えること 曲や演奏のよさなどを見だし、曲全体を味わって聴くこと

見方・考え方

感性や想像力を働かせ、対象や事象を、音や音楽、文化などの視点で捉え、意味や価値を見いだすこと

黄色ハイライト: 第8回芸術WGからの変更点

※目標、内容等については、今後の芸術ワーキンググループにおける検討や総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討

音楽（小学校）

知識及び技能

目標

知識及び技能

音楽を発想豊かに表現したり鑑賞したりするために必要な知識及び技能を身に付けるようにする

内容

領域	区分	高次の資質・能力 【知識及び技能に関する統合的な理解】	資質・能力（概略）
表現	歌唱・器楽	音色や響きの特徴などを個々の感じ方等に基づいて実感を伴って捉えながら、状況や課題に応じて身体の使い方を調節することにより、思いや意図をもって歌唱や器楽で表現できることを理解している	【共通事項】 <ul style="list-style-type: none"> 音楽を形づくっている要素とその働きを諸感覚で捉えること など 歌い方による声の音色などの違いや変化に関する知識及び身体の使い方の技能を身に付けること 歌い方や演奏の仕方による全体の響きの違いや変化に関する知識及び身体の使い方の技能を身に付けること など
	音楽づくり	音の響きの特徴などを個々の感じ方等に基づいて実感を伴って捉えながら、状況や課題に応じて音を選択したり組み合わせたりすることにより、発想を得たり思いや意図をもったりして音楽をつかって表現できることを理解している	【共通事項】 <ul style="list-style-type: none"> 音楽を形づくっている要素とその働きを諸感覚で捉えること など 音の選択や組み合わせ方による音や全体の響きの違いや変化に関する知識及び音楽をつくる技能を身に付けること 音楽の仕組みなどを用いた音やフレーズのつなげ方や重ね方による全体の響きの違いや変化に関する知識及び音楽をつくる技能を身に付けること
鑑賞		音楽の特徴などを個々の感じ方等に基づいて実感を伴って捉えることにより、曲や演奏のよさなどを見いだすことができることを理解している	【共通事項】 <ul style="list-style-type: none"> 音楽を形づくっている要素とその働きを諸感覚で捉えること など 曲想と音楽の構造との関わりについて理解すること

見方・考え方

感性や想像力を働かせ、対象や事象を、音や音楽、文化などの視点で捉え、意味や価値を見いだすこと

黄色ハイライト: 第8回芸術WGからの変更点

※目標、内容等については、今後の芸術ワーキンググループにおける検討や総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討

音楽（中学校）

思考力、判断力、表現力等

目標

思考力、判断力、表現力等

音楽表現について考え、思いや意図をもって創造的に表現したり、価値を見いだしながら音楽のよさや美しさなどを味わって聴いたりすることができるようにする

内容

見方・考え方

感性や想像力を働かせ、対象や事象を、音や音楽、文化などの視点で捉え、意味や価値を見いだすこと

黄色ハイライト:第8回芸術WGからの変更点

※目標、内容等については、今後の芸術ワーキンググループにおける検討や総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討

領域	区分	高次の資質・能力 【思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮】	資質・能力（概略）
表現	歌唱	音や音楽について知覚・感受したことをよりどころに思考を巡らせ、曲にふさわしい表現に対する思いや意図をもち、自分や他者にとって歌唱による表現がもつ意味や価値を 実感しながら、歌唱表現を深めることができる	<p>【共通事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> 音楽を形づくっている要素とそれらの働きとの関わりについて考えること 曲想と音楽の構造、曲の表す内容や歌詞の内容、曲の背景などの関わりを考え、曲の特徴を生かした表現を工夫し、思いや意図をもって歌うこと
	器楽	音や音楽について知覚・感受したことをよりどころに思考を巡らせ、曲にふさわしい表現に対する思いや意図をもち、自分や他者にとって器楽による表現がもつ意味や価値を 実感しながら、器楽表現を深めることができる	<p>【共通事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> 音楽を形づくっている要素とそれらの働きとの関わりについて考えること 曲想と音楽の構造、曲の表す内容や曲の背景などとの関わりを考え、曲の特徴を生かした表現を工夫し、思いや意図をもって演奏すること
	創作	音や音楽について知覚・感受したことをよりどころに思考を巡らせ、課題や条件に沿って音楽をつくるための思いや意図をもち、自分や他者にとって創作による表現がもつ意味や価値を 実感しながら、創作表現を深めることができる	<p>【共通事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> 音楽を形づくっている要素とそれらの働きとの関わりについて考えること 音や音同士の関係の特徴を生かし、課題や条件などに沿った表現を考えながら自分のイメージと関わらせた表現を工夫し、思いや意図をもって音楽をつくること
鑑賞		音や音楽について知覚・感受したことをよりどころに思考を巡らせ、曲や演奏を自分と関わらせながら聴き、自分や他者にとって鑑賞がもつ意味や価値を 実感しながら、音楽を聴き深めることができる	<p>【共通事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> 音楽を形づくっている要素とそれらの働きとの関わりについて考えること 生活や社会における音楽の意味や役割、音楽表現の共通性と固有性について考え、曲や演奏を根拠をもって評価しながらよさや美しさなどを味わって聴くこと

音楽（中学校）

知識及び技能

目標

知識及び技能

音楽を創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な知識及び技能を身に付けるようにする

内容

見方・考え方

感性や想像力を働かせ、対象や事象を、音や音楽、文化などの視点で捉え、意味や価値を見いだすこと

領域	区分	高次の資質・能力 【知識及び技能に関する統合的な理解】	資質・能力（概略）
表現	歌唱	曲にふさわしい声の音色や響きの特徴を個々の感じ方等に基づいて実感を伴って捉えながら、状況や課題に応じて身体の使い方を調節することにより、思いや意図を歌唱で表現できることを理解している	【共通事項】 <ul style="list-style-type: none"> 音楽を形づくっている要素とその働きを諸感覚で捉えること 声の音色や響き及び言葉の特性と曲種に応じた発声との関わりについて、身体の使い方の技能を身に付けて歌いながら理解すること 声部同士の関わりや各声部と全体との関わりについて、他者と合わせて歌う技能を身に付けて歌いながら理解すること
	器楽	曲にふさわしい楽器の音色や響きの特徴を個々の感じ方等に基づいて実感を伴って捉えながら、状況や課題に応じて身体の使い方を調節することにより、思いや意図を器楽で表現できることを理解している	【共通事項】 <ul style="list-style-type: none"> 音楽を形づくっている要素とその働きを諸感覚で捉えること 楽器の音色や響きと奏法との関わりについて、身体の使い方の技能を身に付けて演奏しながら理解すること 声部同士の関わりや各声部と全体との関わりについて、他者と合わせて演奏する技能を身に付けて演奏しながら理解すること
	創作	音や音同士の関係の特徴を個々の感じ方等に基づいて実感を伴って捉えながら、状況や課題に応じて音を選択したり組み合わせたりすることにより、思いや意図を創作で表現できることを理解している	【共通事項】 <ul style="list-style-type: none"> 音楽を形づくっている要素とその働きを諸感覚で捉えること 音をつなげたり重ねたりしたときの響きの特徴及び反復、変化、対照などによって生まれる構成上の特徴について、音を選択したり組み合わせたりする技能を身に付けて音楽をつくりながら理解すること
鑑賞		音楽の特徴や多様性などを個々の感じ方等に基づいて実感を伴って捉えることにより、音楽のよさや美しさ、意味や役割などを見いだすことができることを理解している	【共通事項】 <ul style="list-style-type: none"> 音楽を形づくっている要素とその働きを諸感覚で捉えること 曲想と音楽の構造との関わりについて理解すること

黄色ハイライト：第8回芸術WGからの変更点

※目標、内容等については、今後の芸術ワーキンググループにおける検討や総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討

高次の資質・能力の内容のイメージ（高等学校芸術科（音楽）①）

音楽（高等学校芸術科）

思考力、判断力、表現力等

教科目標（芸術科）

思考力、判断力、表現力等

思いや意図に基づいて考え、工夫して創造的に表現したり、価値意識をもって芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする

科目目標（音楽Ⅰ）

思考力、判断力、表現力等

自己のイメージに基づいた音楽表現について考え、表現意図をもって創造的に表現することや、音楽のよさや美しさなどを自ら味わって聴くことができるようにする

内容（音楽Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ）

領域	区分	高次の資質・能力 【思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮】	資質・能力（概略）
表現	歌唱	音や音楽について知覚・感受したことをよりどころに思考を巡らせ、個性を生かした表現に対する表現意図をもち、自分や他者にとって歌唱による表現がもつ意味や価値を実感しながら、歌唱表現を深めることができる	<p>【共通事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> 音楽を形づくっている要素とそれらの働きとの関わりについて考えること 曲想と音楽の構造、曲の表す内容や歌詞の内容、曲の背景などとの関わりを考え、自分のイメージと関わらせた表現を工夫し、表現意図をもって歌うこと
	器楽	音や音楽について知覚・感受したことをよりどころに思考を巡らせ、個性を生かした表現に対する表現意図をもち、自分や他者にとって器楽による表現がもつ意味や価値を実感しながら、器楽表現を深めることができる	<p>【共通事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> 音楽を形づくっている要素とそれらの働きとの関わりについて考えること 曲想と音楽の構造、曲の表す内容や曲の背景などとの関わりを考え、自分のイメージと関わらせた表現を工夫し、表現意図をもって演奏すること
	創作	音や音楽について知覚・感受したことをよりどころに思考を巡らせ、個性を生かした音楽をつくるための表現意図をもち、自分や他者にとって創作による表現がもつ意味や価値を実感しながら、創作表現を深めることができる	<p>【共通事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> 音楽を形づくっている要素とそれらの働きとの関わりについて考えること 音や音同士の関係の特徴を生かし、課題や条件などに沿った表現を考えながら自分のイメージと関わらせた表現を工夫し、表現意図をもって音楽をつくること
鑑賞		音や音楽について知覚・感受したことをよりどころに思考を巡らせ、音楽を解釈したり曲や演奏を評価したりしながら聴き、自分や他者にとって鑑賞がもつ意味や価値を実感しながら、音楽を聴き深めることができる	<p>【共通事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> 音楽を形づくっている要素とそれらの働きとの関わりについて考えること 生活や社会における音楽の意味や役割、音楽表現の共通性と固有性について考え、曲や演奏を根拠をもって評価しながらよさや美しさなどを自ら味わって聴くこと

見方・考え方

感性や想像力を働かせ、対象や事象を、音や音楽、文化などの視点で捉え、意味や価値を見いだすこと

黄色ハイライト:第8回芸術WGからの変更点

※目標、内容等については、今後の芸術ワーキンググループにおける検討や総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討

高次の資質・能力の内容のイメージ（高等学校芸術科（音楽）②）

音楽（高等学校芸術科）

知識及び技能

教科目標（芸術科）

知識及び技能

各芸術分野の特質や芸術文化について理解するとともに、創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする

科目目標（音楽Ⅰ）

知識及び技能

イメージをもって音楽を創造的に表現したり、曲や演奏のよさや美しさなどを捉えて創造的に鑑賞したりするために必要な知識及び技能を身に付けるようにする

内容（音楽Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ）

領域	区分	高次の資質・能力 【知識及び技能に関する統合的な理解】	資質・能力（概略）
表現	歌唱	曲の特徴や表現上の効果を生かして歌うための声の音色や響きなどを個々の感じ方等に基づいて実感を伴って捉えながら、状況や課題に応じて身体の使い方を調節することにより、表現意図を歌唱で表現できることを理解している	〔共通事項〕 <ul style="list-style-type: none"> 音楽を形づくっている要素とその働きを諸感覚で捉えること 様々な表現形態による歌唱表現の特徴について、表現形態の特徴を生かして歌う技能を身に付けて歌いながら理解すること
	器楽	曲の特徴や表現上の効果を生かして演奏するための楽器の音色や響きなどを個々の感じ方等に基づいて実感を伴って捉えながら、状況や課題に応じて身体の使い方を調節することにより、表現意図を器楽で表現できることを理解している	〔共通事項〕 <ul style="list-style-type: none"> 音楽を形づくっている要素とその働きを諸感覚で捉えること 様々な表現形態による器楽表現の特徴について、表現形態の特徴を生かして演奏する技能を身に付けて演奏しながら理解すること
	創作	音や音同士の関係の特徴などを生かした音のつながりや重なりを個々の感じ方等に基づいて実感を伴って捉えながら、状況や課題に応じて音を選択したり組み合わせたりすることにより、表現意図を創作で表現できることを理解している	〔共通事項〕 <ul style="list-style-type: none"> 音楽を形づくっている要素とその働きを諸感覚で捉えること 音型の特徴や構成上の特徴、音楽の形式の特徴などについて、反復、変化、対照などの手法を身に付けて音楽をつくりながら理解すること
鑑賞		音楽の特徴や多様性などを個々の感じ方等に基づいて実感を伴って捉えることにより、音楽のよさや美しさ、意味や価値などを見いだすことができることを理解している	〔共通事項〕 <ul style="list-style-type: none"> 音楽を形づくっている要素とその働きを諸感覚で捉えること 音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わりについて理解すること

見方・考え方

感性や想像力を働かせ、対象や事象を、音や音楽、文化などの視点で捉え、意味や価値を見いだすこと

黄色ハイライト：第8回芸術WGからの変更点

※目標、内容等については、今後の芸術ワーキンググループにおける検討や総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討

図画工作

思考力、判断力、表現力等

目標

思考力、判断力、表現力等

造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方の工夫などについて考え、創造的に表現したり、作品などに対する自分の見方や感じ方を深めたりすることができるようにする

内容

領域	区分	高次の資質・能力 【思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮】	資質・能力（概略）
表現	自分と材料や場所（仮）	材料や場所などとの関わりから対象や事象を捉え、形や色などを基に自分のイメージをもちながら、豊かに発想や構想をし、造形的な活動をつくる過程での気づきを生かして表現することができる	〔共通事項〕 ・ 形や色などを基に、自分のイメージをもつこと ・ 造形遊びをする活動を通して、身近な自然物や人工の材料や場所などを基に造形的な活動を思い付くことや、どのように活動するかについて考え、活動を工夫して表現すること
	自分と表したいこと（仮）	表そうとすることから対象や事象を捉え、形や色などを基に自分のイメージをもちながら、豊かに発想や構想をし、表す過程での気づきを生かして表現することができる	〔共通事項〕 ・ 形や色などを基に、自分のイメージをもつこと ・ 絵や立体、工作に表す活動を通して、感じたこと、想像したことなどから表したいことを見付けることや、どのように表すかについて考え、表し方を工夫して表現すること
鑑賞		作品などとの関わりから、形や色などを基に自分のイメージをもちながら、自分や他者、生活における造形の意味や価値について考え、自分の見方や感じ方を広げ深めることができる	〔共通事項〕 ・ 形や色などを基に、自分のイメージをもつこと ・ 鑑賞する活動を通して、自分たちの作品や親しみのある美術作品などのよさや美しさ、表現の意図などについて感じ取ったり、考えたりし、自分の見方や感じ方を深めること

黄色ハイライト:第8回芸術WGからの変更点

※目標、内容等については、今後の芸術ワーキンググループにおける検討や総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討

※区分名については、引き続き検討。

見方・考え方

感性や想像力を働かせ、対象や事象を、造形的、文化的な視点で捉え、意味や価値をつくりだすこと

図画工作

知識及び技能

目標

知識及び技能

対象や事象を捉える造形的な視点や造形の働きについて理解するとともに、表現方法に応じて材料、用具を使ったり、表現の特徴を捉えたりすることができるようにする

内容

領域	区分	高次の資質・能力 【知識及び技能に関する統合的な理解】	資質・能力（概略）
表現	自分と材料や場所（仮）	材料や場所などとの関わりから、自分の感覚や行為を通して造形的な特徴を捉えながら、場面に応じて活用できる技能を身に付けることにより、創造的に表現できることを理解している	【共通事項】 <ul style="list-style-type: none"> 自分の感覚や行為を通して、形や色などや、造形の働きについて理解すること 造形遊びをする活動を通して、活動をつくる方法を知り、材料や用具の特徴を生かして使うこと
	自分と表したいこと（仮）	表そうとすることから、自分の感覚や行為を通して造形的な特徴を捉えながら、場面に応じて活用できる技能を身に付けることにより、創造的に表現できることを理解している	【共通事項】 <ul style="list-style-type: none"> 自分の感覚や行為を通して形や色などや、造形の働きについて理解すること 絵や立体、工作に表す活動を通して、表現方法を知り、材料や用具の特徴を生かして使うこと
鑑賞		作品などとの関わりから、自分の感覚や行為を通して造形的な特徴を捉えながら、作品などに応じて活用できる技能を身に付けることにより、創造的に鑑賞できることを理解している	【共通事項】 <ul style="list-style-type: none"> 自分の感覚や行為を通して、形や色などや、造形の働きについて理解すること 鑑賞する活動を通して、鑑賞の方法を知り、自分たちの作品や、親しみのある美術作品などから表現の特徴などを見付けだすこと

見方・考え方

感性や想像力を働かせ、対象や事象を、造形的、文化的な視点で捉え、意味や価値をつくりだすこと

黄色ハイライト：第8回芸術WGからの変更点

※目標、内容等については、今後の芸術ワーキンググループにおける検討や総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討

美術（中学校）

思考力、判断力、表現力等

目標

思考力、判断力、表現力等

造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫などについて考え、豊かに発想し構想を練って創造的に表現したり、美術作品などに対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする

内容

領域	区分	高次の資質・能力 【思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮】	資質・能力（概略）
表現	自分と美術（仮）	自分と美術との関わりから対象や事象を見つめ、感じ取ったことや考えたことなどを基に、豊かに発想や構想をし、意図に応じて表現することができる	<ul style="list-style-type: none"> 感じ取ったことや考えたことなどを基に主題を生み出すこと 構想を練り、工夫して表現すること
	生活や社会と美術（仮）	身近な生活や社会と美術との関わりから対象や事象を見つめ、目的や条件などを基に、豊かに発想や構想をし、意図に応じて表現することができる	<ul style="list-style-type: none"> 意図や、伝える、使うなどの目的や条件などを基に主題を生み出すこと 調和のとれた美しさなどを考えて表現の構想を練り、工夫して表現すること
鑑賞	自分と美術（仮）	自分と美術との関わりから美術作品などを見つめ、 自分の中の美術がもつ意味や価値について考え、見方や感じ方を深めることができる	<ul style="list-style-type: none"> 造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などを考えて、見方や感じ方を深めること
	生活や社会と美術（仮）	身近な生活や社会と美術との関わりから美術作品などを見つめ、 社会における美術がもつ意味や価値について考え、見方や感じ方を深めることができる	<ul style="list-style-type: none"> 目的や条件、機能との調和のとれた美しさなどを感じ取り、作者の心情、表現の意図と工夫などを考えて、見方や感じ方を深めること

見方・考え方

感性や想像力を働かせ、対象や事象を、造形的、文化的な視点で捉え、意味や価値をつくりだすこと

黄色ハイライト：第8回芸術WGからの変更点

※目標、内容等については、今後の芸術ワーキンググループにおける検討や総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討

高次の資質・能力の内容のイメージ（中学校美術②）

美術（中学校）

知識及び技能

目標

知識及び技能

対象や事象を捉える造形的な視点、美術の働きや美術文化について理解するとともに、創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする

内容

領域	区分	高次の資質・能力 【知識及び技能に関する統合的な理解】	資質・能力（概略）
表現	自分と美術 (仮)	自分と美術との関わりから、造形の要素の働きやイメージ、美術文化などについて実感を伴って捉えながら、場面や状況に応じて活用できる技能を身に付けることにより、創造的に表現できることを理解している	〔共通事項〕 <ul style="list-style-type: none"> 形や色彩などの性質やその効果などと、全体のイメージや作風などで捉えることを理解すること 美術の働きや美術文化について理解すること 材料や用具の特性を生かし、表現方法を追求すること 材料や用具の特性などから、効果的な表し方の見直しをもつこと
	生活や社会と美術 (仮)	身近な生活や社会と美術との関わりから、造形の要素の働きやイメージ、美術文化などについて実感を伴って捉えながら、場面や状況に応じて活用できる技能を身に付けることにより、創造的に表現できることを理解している	〔共通事項〕 <ul style="list-style-type: none"> 形や色彩などの性質やその効果などと、全体のイメージや作風などで捉えることを理解すること 美術の働きや美術文化について理解すること 材料や用具の特性を生かし、表現方法を追求すること 材料や用具の特性などから、効果的な表し方の見直しをもつこと
鑑賞	自分と美術 (仮)	自分と美術との関わりから、造形の要素の働きやイメージ、美術文化などについて実感を伴って捉えながら、美術作品などの特徴や表現技法などを読み取る技能を身に付けることにより、創造的に鑑賞できることを理解している	〔共通事項〕 <ul style="list-style-type: none"> 形や色彩などの性質やその効果などと、全体のイメージや作風などで捉えることを理解すること 美術の働きや美術文化について理解すること 視覚的な特徴などの情報を読み取ること
	生活や社会と美術 (仮)	身近な生活や社会と美術との関わりから、造形の要素の働きやイメージ、美術文化などについて実感を伴って捉えながら、美術作品などの特徴や表現技法などを読み取る技能を身に付けることにより、創造的に鑑賞できることを理解している	〔共通事項〕 <ul style="list-style-type: none"> 形や色彩などの性質やその効果などと、全体のイメージや作風などで捉えることを理解すること 美術の働きや美術文化について理解すること 視覚的な特徴などの情報を読み取ること

見方・考え方

感性や想像力を働かせ、対象や事象を、造形的、文化的な視点で捉え、意味や価値をつくりだすこと

黄色ハイライト: 第8回芸術WGからの変更点

※目標、内容等については、今後の芸術ワーキンググループにおける検討や総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討

美術（高等学校芸術科）

思考力、判断力、表現力等

教科目標（芸術科）

思考力、判断力、 表現力等

思いや意図に基づいて考え、工夫して創造的に表現したり、価値意識をもって芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする

科目目標（美術Ⅰ）

思考力、判断力、表現力等

造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫などについて考え、個性豊かに発想し構想を練って創造的に表現したり、価値意識をもって美術作品などに対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする

内容（美術Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ）

領域	区分	高次の資質・能力 【思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮】	資質・能力（概略）
表現	自分と美術（仮）	自分と美術との関わりから対象や事象を深く見つめ、感じ取ったことや考えたことなどを基に、個性豊かに発想や構想をし、意図に応じて表現することができる	（絵画・彫刻、映像メディア表現） <ul style="list-style-type: none"> 感じ取ったことや考えたことを基に主題を生成すること 構想を練り、工夫して表現すること
	社会と美術（仮）	社会と美術との関わりから対象や事象を深く見つめ、目的や条件、意図などを基に、個性豊かに発想や構想をし、意図に応じて表現することができる	（デザイン、映像メディア表現） <ul style="list-style-type: none"> 目的や条件、機能などを考え、主題を生成すること 構想を練り、工夫して表現すること
鑑賞	自分と美術（仮）	自分と美術との関わりから美術作品などを深く見つめ、 自分の中の美術がもつ意味や価値について考え、見方や感じ方を深めることができる	（絵画・彫刻、映像メディア表現） <ul style="list-style-type: none"> 造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情、表現の意図と創造的な表現の工夫などを考え、見方や感じ方を深めること
	社会と美術（仮）	社会と美術との関わりから美術作品などを深く見つめ、 社会における美術がもつ意味や価値について考え、見方や感じ方を深めることができる	（デザイン、映像メディア表現） <ul style="list-style-type: none"> 目的や機能との調和のとれた美しさなどを感じ取り、作者の心情、表現の意図と創造的な工夫などを考え、見方や感じ方を深めること

見方・考え方

感性や想像力を働かせ、対象や事象を、造形的、文化的な視点で捉え、意味や価値をつくりだすこと

黄色ハイライト：第8回芸術WGからの変更点

※目標、内容等については、今後の芸術ワーキンググループにおける検討や総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討

美術（高等学校芸術科）

知識及び技能

教科目標（芸術科）

知識及び技能

各芸術分野の特質や芸術文化について理解するとともに、創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする

科目目標（美術Ⅰ）

知識及び技能

対象や事象を捉える造形的な視点、美術の働きや美術文化について幅広く理解するとともに、創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする

内容（美術Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ）

領域	区分	高次の資質・能力 【知識及び技能に関する統合的な理解】	資質・能力（概略）
表現	自分と美術（仮）	自分と美術との関わりから、造形の要素の働きやイメージ、美術文化などについて実感を伴って捉えながら、状況や課題に応じて活用できる技能を身に付けることにより、創造的に表現できることを理解している	【共通事項】 <ul style="list-style-type: none"> 形や色彩、材料や光などの性質やその効果など、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解すること 美術の働きや美術文化について理解すること <ul style="list-style-type: none"> 材料や用具、映像メディア機器等の特性を生かし、表現方法を幅広く追求すること 材料や用具の特性などから、効果的な表し方の見直しをもつこと
	社会と美術（仮）	社会と美術との関わりから、造形の要素の働きやイメージ、美術文化などについて実感を伴って捉えながら、状況や課題に応じて活用できる技能を身に付けることにより、創造的に表現できることを理解している	【共通事項】 <ul style="list-style-type: none"> 形や色彩、材料や光などの性質やその効果など、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解すること 美術の働きや美術文化について理解すること <ul style="list-style-type: none"> 材料や用具、映像メディア機器等の特性を生かし、表現方法を幅広く追求すること 材料や用具の特性などから、効果的な表し方の見直しをもてるようにすること
鑑賞	自分と美術（仮）	自分と美術との関わりから、造形の要素の働きやイメージ、美術文化などについて実感を伴って捉えながら、美術作品などの特徴や表現技法、背景などを幅広く読み取る技能を身に付けることにより、創造的に鑑賞できることを理解している	【共通事項】 <ul style="list-style-type: none"> 形や色彩、材料や光などの性質やその効果など、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解すること 美術の働きや美術文化について理解すること <ul style="list-style-type: none"> 視覚的な特徴などの情報を読み取ること 背景や文脈などを踏まえながら美術作品などの情報を読み取ること
	社会と美術（仮）	社会と美術との関わりから、造形の要素の働きやイメージ、美術文化などについて実感を伴って捉えながら、美術作品などの特徴や表現技法、背景などを幅広く読み取る技能を身に付けることにより、創造的に鑑賞できることを理解している	【共通事項】 <ul style="list-style-type: none"> 形や色彩、材料や光などの性質やその効果など、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解すること 美術の働きや美術文化について理解すること <ul style="list-style-type: none"> 視覚的な特徴などの情報を読み取ること 背景などを踏まえながら美術作品などの情報を読み取ること

見方・考え方

感性や想像力を働かせ、対象や事象を、造形的、文化的な視点で捉え、意味や価値をつくりだすこと

黄色ハイライト: 第8回芸術WGからの変更点

※目標、内容等については、今後の芸術ワーキンググループにおける検討や総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討

工芸（高等学校芸術科）

思考力、判断力、表現力等

教科目標（芸術科）

思考力、判断力、
表現力等

思いや意図に基づいて考え、工夫して創造的に表現したり、価値意識をもって芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする

科目目標（工芸Ⅰ）

思考力、判断力、表現力等

造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫などについて考え、心豊かに発想し構想を練って創造的に表現したり、価値意識をもって工芸作品などに対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする

内容（工芸Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ）

領域	区分	高次の資質・能力 【思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮】	資質・能力（概略）
表現	身近な生活と工芸	身近な生活と工芸との関わりから対象や事象を深く見つけ、自然や素材、自分の思いなどから心豊かに発想や構想をし、意図に応じて表現することができる	<ul style="list-style-type: none"> 自然や素材、自己の思いなどから、心豊かな発想をすること 制作の構想を練り、工夫して表現すること
	社会と工芸	社会と工芸との関わりから対象や事象を深く見つけ、使う人や生活環境などから心豊かに発想や構想をし、意図に応じて表現することができる	<ul style="list-style-type: none"> 使う人の願いや心情、生活環境などから心豊かな発想をすること 制作の構想を練り、工夫して表現すること
鑑賞	身近な生活と工芸	身近な生活と工芸との関わりから工芸作品などを深く見つけ、 生活における工芸がもつ意味や価値について考え、見方や感じ方を深めることができる	<ul style="list-style-type: none"> 工芸作品などのよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と制作過程における工夫や素材の生かし方、技法などについて考え、見方や感じ方を深めること
	社会と工芸	社会と工芸との関わりから工芸作品などを深く見つけ、 社会における工芸がもつ意味や価値について考え、見方や感じ方を深めることができる	<ul style="list-style-type: none"> 工芸作品などのよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と制作過程における工夫や素材の生かし方、技法などについて考え、見方や感じ方を深めること

見方・考え方

感性や想像力を働かせ、対象や事象を、造形的、文化的な視点で捉え、意味や価値をつくりだすこと

黄色ハイライト：第8回芸術WGからの変更点

※目標、内容等については、今後の芸術ワーキンググループにおける検討や総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討

工芸（高等学校芸術科）

知識及び技能

教科目標（芸術科）

知識及び技能

各芸術分野の特質や芸術文化について理解するとともに、創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする

科目目標（工芸Ⅰ）

知識及び技能

対象や事象を捉える造形的な視点、工芸の働きや工芸の伝統と文化について幅広く理解するとともに、創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする

内容（工芸Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ）

領域	区分	高次の資質・能力 【知識及び技能に関する統合的な理解】	資質・能力（概略）
表現	身近な生活と工芸	身近な生活と工芸との関わりから、造形の要素の働きやイメージ、工芸の伝統と文化などについて実感を伴って捉えながら、状況や課題に応じて活用できる技能を身に付けることにより、創造的に表現できることを理解している	【共通事項】 <ul style="list-style-type: none"> 形や色彩、素材や光などの性質やその効果などと、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解すること 工芸の働きや工芸の伝統と文化について理解すること 制作方法を踏まえ、材料や用具を生かし、表現方法を追求すること 材料や用具の特性などから、手順や技法などを吟味し、効果的な表し方の見直しをもつこと
	社会と工芸	社会と工芸との関わりから、造形の要素の働きやイメージ、工芸の伝統と文化などについて実感を伴って捉えながら、状況や課題に応じて活用できる技能を身に付けることにより、創造的に表現できることを理解している	【共通事項】 <ul style="list-style-type: none"> 形や色彩、素材や光などの性質やその効果などと、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解すること 工芸の働きや工芸の伝統と文化について理解すること 制作方法を踏まえ、材料や用具を生かし、表現方法を追求すること 材料や用具の特性などから、手順や技法などを吟味し、効果的な表し方の見直しをもつこと
鑑賞	身近な生活と工芸	身近な生活と工芸との関わりから、造形の要素の働きやイメージ、工芸の伝統と文化などについて実感を伴って捉えながら、工芸作品などの特徴や表現技法、背景などを幅広く読み取る技能を身に付けることにより、創造的に鑑賞できることを理解している	【共通事項】 <ul style="list-style-type: none"> 形や色彩、素材や光などの性質やその効果などと、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解すること 工芸の働きや工芸の伝統と文化について理解すること 視覚的な特徴などの情報を読み取ること 背景などを踏まえながら工芸作品などの情報を読み取ること
	社会と工芸	社会と工芸との関わりから、造形の要素の働きやイメージ、工芸の伝統と文化などについて実感を伴って捉えながら、工芸作品などの特徴や表現技法、背景などを幅広く読み取る技能を身に付けることにより、創造的に鑑賞できることを理解している	【共通事項】 <ul style="list-style-type: none"> 形や色彩、素材や光などの性質やその効果などと、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解すること 工芸の働きや工芸の伝統と文化について理解すること 視覚的な特徴などの情報を読み取ること 背景などを踏まえながら工芸作品などの情報を読み取ること

見方・考え方

感性や想像力を働かせ、対象や事象を、造形的、文化的な視点で捉え、意味や価値をつくりだすこと

黄色ハイライト：第8回芸術WGからの変更点

※目標、内容等については、今後の芸術ワーキンググループにおける検討や総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討

書道（高等学校芸術科）

思考力、判断力、表現力等

教科目標（芸術科）

思考力、判断力、表現力等

思いや意図に基づいて考え、工夫して創造的に表現したり、価値意識をもって芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする

科目目標（書道Ⅰ）

思考力、判断力、表現力等

書の伝統と文化の意味や価値について考え、構想し工夫することにより効果的、創造的に表現したり、価値意識をもって書のよさや美しさを味わい捉えたりすることができるようにする

内容（書道Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ）

領域	高次の資質・能力 【思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮】	資質・能力（概略）
表現	自分と社会、文字や書の歴史や文化等との関わりから、書の伝統と文化、作品や書の美、その意味や価値について深く考え、自らの価値意識を形成しながら、創造的、個性的に美を表現したり自己表現したりすることができる	<ul style="list-style-type: none"> 名筆を生かした表現や現代に生きる表現、漢字の書及び仮名の書の伝統と文化に基づく表現について考えること 自らの感興や表現の意図に基づいて、構想し表現を工夫して効果的、創造的に表現すること
鑑賞	書かれた言葉、歴史的背景、生活や社会、諸文化等との関わりから、書の伝統と文化、作品や書の美、その意味や価値について深く考え、自らの価値意識を形成しながら、作品や書のよさや美しさを豊かに味わうことができる	<ul style="list-style-type: none"> 生活や社会における作品や書の働きや効用、自分や他者にとっての作品や書の意味や価値について考えること 作品や書の美の構造、多様な背景との関わり、書の伝統と文化について考えることを通して、書のよさや美しさを味わうこと

見方・考え方

感性を働かせ、文字や書を、書の美を構成する要素とその働き、伝統と文化などの視点で捉え、意味や価値を追求すること

書道（高等学校芸術科）

知識及び技能

教科目標（芸術科）

知識及び技能

各芸術分野の特質や芸術文化について理解するとともに、創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする

科目目標（書道Ⅰ）

知識及び技能

書の特性、伝統と文化について幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、効果的、創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする

内容（書道Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ）

領域	高次の資質・能力 【知識及び技能に関する統合的な理解】	資質・能力（概略）
表現	作品や書における美の構造やその働き、書の伝統と文化について実感を伴って捉えながら、身体の機能や感覚を駆使して目的や状況に応じて自在に活用できる技能を身に付けることにより、創造的、個性的に表現できることを理解している	【共通事項】 <ul style="list-style-type: none"> • 書を構成する要素の働きと、書の表現性、表現効果、風趣との関わりについて理解すること • 書の美の構造、書の美を捉える視点について理解すること • 各分野の書を構成する様々な要素の働きや、多様な書風を形づくる背景について理解すること • 用具・用材の特徴、古典や名筆等の基本的な用筆・運筆等の効果を生かして、効果的、創造的に表現するために必要な技能を身に付けること
鑑賞	書の伝統と文化、書の美の多様性と関わらせて、書の美を捉える視点等について実感を伴って捉えながら、作品や書から情報を読み取る技能を身に付けることにより、作品や書のよさや美しさを豊かに味わうことができることを理解している	【共通事項】 <ul style="list-style-type: none"> • 書を構成する要素の働きと、書の表現性、表現効果、風趣との関わりについて理解すること • 書の美の構造、書の美を捉える視点について理解すること • 書の伝統と文化、漢字の書体の変遷、仮名の成立、漢字仮名交じりの書の成立について理解すること • 書の美を捉える視点を通して、読み取った情報や感じ取ったことを精査する技能を身に付けること

見方・考え方

感性を働かせ、文字や書を、書の美を構成する要素とその働き、伝統と文化などの視点で捉え、意味や価値を追求すること

黄色ハイライト:第8回芸術WGからの変更点

※目標、内容等については、今後の芸術ワーキンググループにおける検討や総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討